

平成25年度(2013)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
花・野菜技術センター 一年報

平成26年11月

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
農業研究本部 花・野菜技術センター

平成25年度
花・野菜技術センター一年報
目次

I 総説

1. 沿革	1
2. 位置および土壌	2
3. 用地および利用区分	2
4. 機構	2
5. 職員	3
6. 収入支出決算額	4
7. 建物	5
8. 施設および備品	6

II 作況

1. 気象概要	7
2. 野菜類の生育状況	7

III 事業の推進方向と成果の概要

1. 研究部	11
2. 技術普及室	13

IV 試験研究および地域支援等活動の課題名

1. 花き野菜に関する試験	14
2. 栽培環境に関する試験	15
3. 病害虫に関する試験	17
4. 技術体系化に関する試験	17
5. 地域支援に関する試験等	17

V 研修事業の概要

1. 概要	18
2. 研修事業の推進	18
3. 北海道花き・野菜技術研修	19
4. 研修ほ場等作付概要	23

VI 研究発表並びに普及事項

1. 研究報告・資料	24
2. 印刷刊行物	27
3. 普及事項	27

VII その他

1. 職員の研修	29
2. 見学・参観	29
3. 研修生の受け入れ（研修事業以外）	30
4. 委員会活動	31
5. 公開デー2013の実施	31
6. 講師等の派遣	32
7. 各種委員	33

VIII 自己点検への対応 34

I 総説

1. 沿革

(1) 設立の趣旨と経過

当センターは、本道農業の戦略作物である花き・野菜生産の一層の振興を図るため、試験研究部門とその技術を普及する部門を一体化し、相互の連携の下に総合的な機能を果たす拠点施設として、平成8年度に設立された。

試験研究では、道立農業試験場における花き・野菜の中核的研究機関として、関係場との分担を図りながら、新品種の開発、栽培技術および流通技術等に関する試験を効率的に推進し、また、技術普及・研修では、開発された新技術を重点的かつ効率的に普及指導し、地域への定着を図るとともに、生産者や指導者等に対する技術指導はもとより、「開かれた試験場」として、一般消費者をも対象とした啓発研修を行うとしている。

平成4年度に調査費、同5年度には設計費が予算化された。平成6年度より道立滝川畜産試験場内に研究棟などの建設、ほ場の整備が開始され、同7年度には付属施設、研修寮、温室などすべての施設の建設と備品の納入も完了した。一部、幹線などの舗装工事、外構工事等を平成8年度に残したが、同年3月には「北海道立農業試験場条例」を改正、4月に職員が配置され、業務を開始した。8月30日には、北海道知事、滝川市長、農業団体など関係者を迎え、開所式を開催した。平成9年度より本格的に試験研究、研修などを開始、平成10年度以降もハウスの移転、新設など環境の整備が進み、着実に成果をあげている。

(2) 組織機構の変遷

平成8年4月に場長以下、総務部、研究部、専門技術員室の2部1室体制でスタートしたが、場長および研修主査を除く総務部は隣接する滝川畜産試験場との兼務体制であった。

平成12年4月、道立畜産試験場の再編に伴い、場長以下、総務部の兼務体制が解かれ、専任の体制となった。

また、道立農業試験場の機構改革により、専門技術員室は発展的に解消し、技術普及部が新設され、技術普及体制の強化が図られた。

平成22年4月、22道立試験研究機関を統合し創設された地方独立行政法人北海道立総合研究機構の農業研究本部の一員として、3グループからなる研究部と総務課の体制で再スタートし、道所属の普及指導員が駐在する技術普及室が設置された。

(3) 試験研究体制と推進方向

研究部は、平成8年度は花き2科、野菜2科、土壌肥料科、病虫科の6科体制であったが、平成12年度に花き科、野菜科、園芸環境科、病虫科の4科体制となった。平成18年度には園芸環境科を栽培環境科と改称した。平成22年度からは、旧花き科・野菜科を統合した花き野菜グループ、旧栽培環境科・病虫科からなる生産環境グループに加えて、旧技術普及部の研修・地域対応と旧総務部管理科機能を併せた技術研修グループからなる3グループ体制となった。

当センターは、花き・野菜に関する試験研究を行う専門場に位置づけられ、品種・栽培部門と栽培環境・病害虫の環境部門が一体化した総合的な試験研究を効率的に推進することが期待されている。

また、花き・野菜の試験研究の中核的機関として、農業研究本部、各場との連携の下に花き・野菜に関する試験研究の企画調整や地域対応研究も担っている。

(4) 研修体制および技術普及と推進方向

当センターにおける重要な業務として、試験研究とともに技術研修と技術普及がある。

技術研修は、試験研究で開発または体系化された新技術の生産現場への速やかで効率的な伝達普及を目的として、農業技術指導者、中核的農業者などを対象に実施している。長期的な専門研修から市民セミナーまで幅広い研修内容となっており、研究員と普及指導員、各農試の協力のほか、外部講師を招き指導している。研修事業に対応した研修寮、技術研修室、研修用ほ場・温室が整備されるとともに、研修担当者が配置され平成8年度の準備期間を経て、平成9年度から本格的に研

修事業を開始した。平成12年度に研修業務が総務部から新設の技術普及部に移管し、さらに、平成22年度には研修事業と技術支援、旧管理科業務を担う技術研修グループが新設され研究部にこれら業務が移管することとなった。

そのほか、当センターには開放実験室、展示温室、展示ほ場も設置され、農業関係者ばかりでなく、一般道民にも「開かれた試験場」として利用できる試験研究機関を目指している。

普及部門は、平成8年度より専門技術員室（滝川専技室）が設置され、普及支援活動や技術相談の機能を果たしてきたが、平成12年度に専門技術員と研究職員および研修担当者からなる技術普及部が新設され、普及・技術支援・研修に対応してきた。さらに、研究部と技術普及部で組織された技術体系化チームによる新技術の普及推進体制が整えられた。平成18年には農業改良助長法の改正により、専門技術員が普及指導員へ一元化されるとともに道立農試機構改正による技術普及部の体制も変更した。

また、平成22年度より、独法化による技術普及部の廃止にともない技術普及室が新設され、道所属の普及指導員が駐在して普及業務を担っている。

2. 位置および土壌

滝川市東滝川735番地

北緯43° 35′ 東経141° 59′

滝川市街より空知川に沿って東北に約8km、JR根室本線東滝川駅より約1kmにある。中央バス滝川ターミナルより赤平芦別方面行きバスに約13分間乗車し、花・野菜技術センター入口で下車、徒歩15分（約1km）。道央自動車道滝川インターチェンジより国道38号線を経由し車で5～6分。

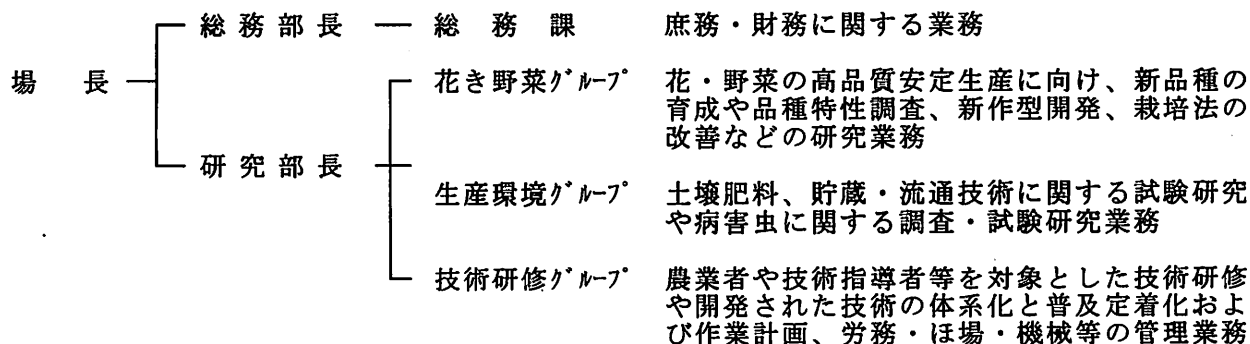
本センターは洪積台地（地形は低位段丘、平坦～緩傾斜）にあり、土壌の種類は細粒灰色台地土（暗色表層疑似グライ土）である。しかし、圃場整備により、作土層（40cm）は旧表土22cmに砂質軽石流堆積物を18cm客土、混和している。

ハウス圃場は酸性褐色森林土の客入土にパーク堆肥、土壌改良資材（炭カル）を投入し、改良した。平成9年、さらに砂質軽石流堆積物15cm程度を客土、混和した。

3. 用地および利用区分

総面積	51.8ha
建物敷地	19.2ha
庁舎	10.2ha
調査棟・温室	3.7ha
機械庫その他	5.3ha
畑	31.0ha
試験・展示・研修圃場	26.7ha
ハウス・枠圃場	4.3ha
道路用地	1.6ha

4. 機 構 （平成26年3月31日現在）



（花・野菜技術センター技術普及室＊）

上席普及指導員 — 主任普及指導員

＊ 北海道農政部食の安全推進局技術普及課

普及センター等への支援、専門技術の調査研究

5. 職 員

(1) 職員数 (平成26年3月31日現在)

区 分	場 長	部 長	総 務 課	花き野菜G	生産環境G	技術研修G	計
研究(プロパー)	1	1		8	7	3	20
研究支援(プロパー)			2			5	5
研究支援(道派遣)		1	4			2	9
計	1	2	(兼務1外数) 6	8	7	10	34

(2) 現職員名簿 (平成26年3月31日現在)

所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
総務部	場 長	田中英彦	生産環境G	主査(栽培環境)	林 哲 央
	総務部長	橋本裕二		研究主査	田丸浩幸
	総務課長(兼)	橋本裕二		研究主査	野田智昭
	主査(総務)	白木和美		主査(病虫)	橋本直樹
	主査(調整)	小田文子		研究主査	西脇由恵
	指導主任	土田 操		研究主任	白井佳代
	主任	岩橋 広樹		研究主幹	川岸 康司
研究部	主任	高松 誠治	技術研修G	主査(技術研修)	小田 義信
	研究部長	佐藤 勝宏		主査(技術研修)	鈴木 亮子
	研究主幹	長尾 明宣		主査(研修)	得能 徹
	主任研究員	田中 静幸		技 師	熊谷 美希
	主査(花き)	生方 雅男		指導主任	及川 忠
	研究主査	黒島 学			玉川 忠
	主査(野菜)	大宮 知		主 任	南 貴夫
	研究主任	福川 英司			寺口 佳孝
		大久保 進一			梶山 幸道
		八木 亮治			
生産環境G		木村 文彦	(道技術普及室)	上席普及指導員	藤田 寿雄
	研究主幹	角野 晶大		主任普及指導員	宮町 良治

(3) 転入・採用

職 名	氏 名	採用転入年月日	備 考
場 長	田中英彦	25. 4. 1	農業研究本部企画調整部
研究部 生産環境G 研究主任	白井佳代	25. 4. 1	北見農業試験場研究部生産環境G
研究部 技術研修G 技師	熊谷美希	25. 4. 1	農業研究本部総務部総務課
(道技術普及室)	宮町良治	25. 4. 1	石狩農業改良普及センター本所

(4) 転出・退職

職 名	氏 名	転出退職年月日	備 考
研究部 生産環境G 研究主任 (道技術普及室) 場 長	野 津 あゆみ	25. 4. 1	中央農業試験場病虫部予察診断G
	高 橋 恒 久	25. 4. 1	上川農業改良普及センター富良野支所
	中 野 雅 章	25. 3. 31	退職

6. 収入支出決算額

(1) 収入決算額 (単位：円)

科 目	決 算 額
農 産 物 売 払 収 入	358,021
不 用 品 売 払 収 入	312,500
法 人 財 産 使 用 料 等	396,733
そ の 他 雑 収 入	0
共 同 研 究 費 負 担 金	750,000
国 庫 受 託 研 究 収 入	6,271,000
道 受 託 研 究 収 入	2,439,000
そ の 他 受 託 研 究 収 入	8,639,000
計	19,166,254

※事業費支弁人件費振替額を含む

(2) 支出決算額 (単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	繰 越 額	残 額
戦 略 研 究 費	5,000,000	5,000,000	0	0
重 点 研 究 費	1,500,000	1,500,000	0	0
職 員 研 究 奨 励 費	575,000	575,000	0	0
経 常 研 究 費	11,595,000	11,475,568	0	119,432
技 術 普 及 指 導 費	5,556,000	5,550,792	0	5,208
研 究 用 備 品 整 備 費	714,000	714,000	0	0
目 的 積 立 金 活 用 事 業 費	1,575,000	1,575,000	0	0
維 持 管 理 経 費	116,432,000	114,013,669	0	2,418,331
運 営 経 費	13,359,000	13,296,661	0	62,339
共 同 研 究 費	750,000	750,000	0	0
国 庫 受 託 研 究 費	5,939,000	5,937,665	0	1,335
道 受 託 研 究 費	2,439,000	2,439,000	0	0
そ の 他 受 託 研 究 費	7,898,000	7,895,118	0	2,882
計	173,332,000	170,722,473	0	2,609,527

※事業費支弁人件費振替額を除く

7. 建物

(1) 現有 (平成26年3月31日現在)

名 称	構 造	面 積
事務庁舎	レンガ造2階	449.86㎡
総合研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	721.36
農機具格納庫	木造平屋	233.00
総務課第2車庫	〃	43.74
庁舎2号物置	〃	49.58
第2運動器具庫	〃	24.79
運動具庫	〃	5.04
管理科油類格納庫	ブロック造平屋	5.69
管理科職員詰所	木造平屋	106.92
機材庫	鉄骨平屋	1,033.46
農業機械格納庫	〃	569.16
総合車庫	〃	187.20
花・野菜技術センター研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	2,104.73
展示温室	鉄骨平屋	118.87
研修宿泊棟	鉄筋コンクリート2階	1,205.84
花き・野菜調査棟	鉄骨平屋	384.00
病虫・土壌作物調査棟	〃	390.00
保鮮実験棟	〃	232.80
花き・野菜詰所	〃	141.62
床土置場・土詰播種作業棟	〃	553.80
農機具格納庫・車庫棟	〃	659.34
電気室棟	〃	66.30
花き温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
〃 -3	〃	166.00
野菜温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
〃 -3	〃	166.00
病虫温室	〃	166.00
土肥温室	〃	166.00
研修温室-1	〃	290.25
〃 -2	〃	290.25
環境制御温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
人工気象室	〃	80.18
ミスト室	〃	164.20
参観者トイレ	〃	37.96
来園者トイレ	鉄筋コンクリート平屋	29.25
総務課倉庫	木造平屋	43.74
圃場避難棟-1	〃	29.16
〃 -2	〃	29.16

<続き>

名 称	構 造	面 積
総務課物置 3	木造平屋	26.46㎡
〃 4	〃	26.46
〃 5	〃	14.87
第2研修寮	ブロック造平屋	122.50
第2研修寮物置	木造平屋	9.93

8. 施設および備品

(1) 新たに設置した施設

名 称	構 造	数量	新設年月日	価 格	摘 要
該当なし					

(2) 新たに購入した備品 (50万円以上)

品 名	数量	規格および型式	金 額	配 置
低温恒温器および付属品	1	東京理化器械(株) LTI-700E	714,000	生産環境G
温水高圧洗浄機および付属品	1	ケルヒージャパン(株) HDS8/17MX	735,000	技術研修G
ディーゼルエンジン発電機	1	デンヨー(株)TLG-13LSY	840,000	技術研修G

Ⅱ 作 況

1. 気象概要

(1) 冬期間の経過

根雪始は平成24年11月16日で平年より7日早かった。冬期間（11月～3月）の気温は、12月中旬までは平年並みであったが、12月下旬～1月下旬および2月中下旬は低く推移した。降水量は11月中旬～12月上旬にやや多かったが、全般に並からやや少なかった。日照時間は、少ない傾向で推移したが、1月下旬、2月中旬に多かった。根雪終は4月17日で平年より4日遅かった。根雪期間は153日間で平年より11日長かった。

(2) 農耕期間の経過

晩霜は4月21日で平年より17日早く、初霜は10月17日と平年より3日早かった。無霜期間は178日と平年より14日長かった。

農耕期間（5月から9月）の平均気温は5月上旬が平均気温で著しく低く、7月上中旬、8月中旬は高く、他の期間は並の傾向で推移した。農耕期間の積算気温は2725.2℃で平年の102%であった。

降水量は5月上旬、6月上旬、7月中下旬は少なく、8月中下旬、9月中旬に多かった。とくに9月中旬は平年の344%の降雨があった。農耕期間を通しての積算降水量は539mmで平年の102%であった。

本年の農耕期間の気象は、5月上旬の低温、7月上中旬、8月中旬の高温、5月～8月上旬の寡雨、8月中旬以降の多雨が特徴的であった。

(3) 月別の経過

4月：平均気温は中下旬がやや低く、降水量はやや多かった。日照時間は全般に少なかった。

5月：平均気温は上旬が平年より4.2℃低かった。降水量は上旬が少なかった。日照時間は全般に少なかった。

6月：平均気温は全般に並だったが、上旬の最高気温が4.2℃高く、中旬の最低気温も2.4℃高かった。夏日は10日あった。降水量は全般に少なかった。日照時間は上旬に多く、中下旬は並～やや少なかった。

7月：平均気温は上中旬が高かった。夏日が

20日、真夏日は5日であった。降水量は中下旬が少なかった。日照時間は中旬が多かった。

8月：平均気温は中旬が高かった。夏日は21日、真夏日は2日であった。降水量は中下旬にやや多かった。日照時間は中旬がやや少なかった。

9月：平均気温は並だった。夏日は5日あった。降水量は中旬に多かった。日照時間は上中旬がやや少なかった。

10月：平均気温は並だった。降水量は上旬が少なく、中旬がやや少なかった。日照時間は中旬が少なかった。

2. 野菜類の生育状況

(1) メロン（対象品種：「北かれん」）

5月8日定植の無加温半促成作型で栽培した。5月上旬は平年に比べ日照時間が少なく、気温も低かったことから初期生育は緩慢であった。5月下旬から日照時間や気温が概ね平年並となり、生育は回復してきた。開花期～着果期である6月中旬の日照時間や気温は平年並みからやや良好で、着果は順調であった。降水量は生育期全般で少なく、乾燥気味であった。そのため、病害の発生はほぼみられなかった。糖度は13.7%、一果重は2.12kg、良果収量は362kg/aであった。

(2) かぼちゃ（対象品種：「えびす」）

6月17日定植のセル成型育苗による露地早熟作型で栽培した。定植期の6月中旬は気温が平年より暖かく、降水量は平年並みであり、活着は順調であった。その後も、開花期である7月中旬まで気温は平年より高く、日照時間も平年並みであったことから生育および着果は良好であった。8月に入り降水量が非常に多くなり、収穫期である9月上旬までその傾向が続いた。そのため、生育はやや軟弱に生育し、乾物率は16.9%と低くなった。6～7月は圃場が乾燥気味でありうどんこ病は発生が遅かったが、降水量が多くなった8月中旬以降は圃場全体に蔓延した。一株当りの着果数および平均一果重は2.4果/株、2.10kgで平年並であった。良果収量は262kg/aと平年より2割以上多く、多収であった。

(3) いちご (対象品種:「けんたろう」)

平成24年8月21日定植の無加温半促成作型で土耕栽培した。ハウス内融雪期は3月19日とやや早かったが、3月下旬および4月中旬の気温が低めであったため、開花始期は4月19日と平年並みであった。4月下旬以降も5月中旬まで低温傾向が続いたため、収穫始期は5月27日と平年よりやや遅かった。総収量は2618kg/10a、規格内一果重は12.6gで平年並みであったが、小果が多く規格内収穫果数がやや少なかったため、規格内収量は1603kg/10aと平年よりやや少なかった。Brixは8.9%で平年よりやや低かった。

(4) たまねぎ (対象品種:「スーパー北もみじ」)

播種期は3月6日、定植期は5月10日の普通作型で栽培した。移植後の降雨が少なく、初期生育は緩慢であったが、その後、地上部生育は回復し、7月上旬には旺盛な生育となった。生育盛

期以降に降雨が多かったことから球肥大は良好であった。白斑葉枯病、スリップス等の病害虫被害は少なかった。しかし、倒伏後の生葉にヨトウムシ類の食害がみられた。夏期の降水量は多かったが、湿害等顕著な生育障害は認められなかった。

また、収穫時の圃場は乾燥条件が良かったことから、倒伏期は8月9日で、平年より4日早く、規格内収量は746kg/a (平年比134%:圃場変更により参考値) で本年は多収となった。

(5) トマト (対象品種:「CF桃太郎ファイト」)

4月25日播種、6月14日定植のハウス夏秋どり作型で栽培した。定植直後の高温により活着が遅れ、低段果房に小果が多く発生し、9月以降には裂果が多発した。このため、総収量および良果収量は平年に比べ低収となり、それぞれ989kg/aおよび525kg/aであった。収穫は10月15日に終了した。

気象表 (平成24年11月～平成25年12月)

年	月	旬	平均気温(℃)			最高气温(℃)			最低气温(℃)			降水量(mm)			降水日数(日)			日照時間(時間)		
			本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
H24	11	上	7.4	6.3	1.1	10.3	10.5	△ 0.2	4.4	1.9	2.5	46	47	△ 2	4	7	△ 3	17.4	30.4	△ 13.0
		中	3.4	2.8	0.6	6.8	6.1	0.7	-0.1	-0.5	0.4	57	45	12	5	7	△ 2	22.9	21.5	1.4
		下	-1.2	0.3	△ 1.5	1.5	3.7	△ 2.2	-3.8	-3.2	△ 0.6	50	33	17	8	6	2	15.9	20.3	△ 4.4
	12	上	-3.4	-2.5	△ 0.9	0.2	0.5	△ 0.3	-7.1	-5.9	△ 1.2	38	28	10	5	6	△ 1	12.9	18.7	△ 5.8
		中	-5.2	-4.8	△ 0.4	-2.3	-1.4	△ 0.9	-8.1	-8.2	0.1	22	23	△ 2	6	7	△ 1	11.1	13.8	△ 2.7
		下	-9.1	-5.9	△ 3.2	-4.3	-2.3	△ 2.0	-13.9	-9.5	△ 4.4	20	25	△ 5	5	8	△ 3	16.6	20.7	△ 4.1
	1	上	-9.7	-8.2	△ 3.5	-5.9	-2.6	△ 3.3	-13.4	-9.7	△ 3.7	16	18	△ 3	6	6	0	17.5	19.2	△ 1.7
		中	-10.4	-7.9	△ 2.5	-6.0	-3.9	△ 2.1	-14.8	-11.8	△ 3.0	14	24	△ 10	5	6	△ 1	19.6	22.9	△ 3.3
		下	-8.1	-6.8	△ 1.3	-2.6	-2.6	0.0	-13.5	-10.9	△ 2.6	7	20	△ 14	3	6	△ 3	38.4	30.7	7.7
	2	上	-6.2	-6.8	0.6	-1.9	-2.4	0.5	-10.4	-11.3	0.9	17	20	△ 3	6	6	0	26.0	32.2	△ 6.2
		中	-9.3	-6.6	△ 2.7	-4.1	-2.0	△ 2.1	-14.4	-11.1	△ 3.3	16	21	△ 5	5	7	△ 2	45.7	31.3	14.4
		下	-7.8	-5.0	△ 2.8	-3.1	-0.3	△ 2.8	-12.4	-9.6	△ 2.8	14	17	△ 4	4	4	0	19.8	35.8	△ 16.0
3	上	-4.8	-4.3	△ 0.5	0.0	0.0	0.0	-9.5	-8.5	△ 1.0	21	13	8	7	5	2	30.7	41.4	△ 10.7	
	中	-2.1	-1.4	△ 0.7	1.9	2.5	△ 0.6	-6.1	-5.2	△ 0.9	12	20	△ 8	5	5	0	16.0	37.1	△ 21.1	
	下	-2.4	0.2	△ 2.6	1.7	4.0	△ 2.3	-6.5	-3.6	△ 2.9	14	12	2	5	4	1	50.4	54.3	△ 3.9	
H25	4	上	2.5	2.5	0.0	6.5	7.1	△ 0.6	-1.6	-2.0	0.4	22	12	10	6	4	2	42.5	55.8	△ 13.3
		中	3.6	5.5	△ 1.9	6.6	10.3	△ 3.7	0.5	0.5	0.0	28	18	10	6	4	2	41.5	55.9	△ 14.4
		下	5.7	7.1	△ 1.4	9.7	12.1	△ 2.4	1.6	2.1	△ 0.5	28	29	△ 2	7	5	2	35.3	49.2	△ 13.9
5	上	5.6	9.8	△ 4.2	9.9	15.3	△ 5.4	1.2	4.1	△ 2.9	17	31	△ 15	3	4	△ 1	45.8	61.6	△ 15.8	
	中	10.3	11.3	△ 1.0	14.6	16.6	△ 2.0	6.1	5.9	0.2	23	20	3	3	2	1	27.4	59.7	△ 32.3	
	下	14.5	13.5	1.0	19.6	18.8	0.8	9.3	8.2	1.1	15	19	△ 4	3	4	△ 1	55.0	65.0	△ 10.0	
6	上	17.5	15.6	1.9	24.8	20.6	4.2	10.2	10.5	△ 0.3	1	21	△ 20	1	3	△ 2	104.8	62.3	42.5	
	中	19.2	17.4	1.8	23.6	22.2	1.4	14.9	12.5	2.4	17	20	△ 3	4	3	1	44.0	55.3	△ 11.3	
	下	17.2	18.9	△ 1.7	22.4	23.7	△ 1.3	12.0	14.0	△ 2.0	13	24	△ 12	3	2	1	53.9	56.5	△ 2.6	
7	上	22.4	19.6	2.8	27.3	24.0	3.3	17.4	15.1	2.3	33	30	3	5	3	2	62.8	50.9	11.9	
	中	21.9	19.8	2.1	27.2	23.6	3.6	16.5	16.0	0.5	0	63	△ 63	0	4	△ 4	79.3	40.5	38.8	
	下	22.5	21.2	1.3	27.3	25.5	1.8	17.8	16.9	0.9	17	33	△ 16	2	3	△ 1	47.8	56.9	△ 9.1	
8	上	23.0	23.0	0.0	27.8	27.2	0.6	18.2	18.8	△ 0.6	32	39	△ 7	2	3	△ 1	57.7	48.9	8.8	
	中	24.3	21.6	2.7	28.0	25.9	2.1	20.5	17.3	3.2	73	42	31	6	3	3	38.0	49.5	△ 11.5	
	下	19.8	20.0	△ 0.2	23.9	24.6	△ 0.7	15.6	15.4	0.2	87	51	36	8	4	4	47.7	54.3	△ 6.6	
9	上	18.6	19.3	△ 0.7	22.6	24.0	△ 1.4	14.6	14.5	0.1	80	70	10	7	4	3	31.6	46.4	△ 14.8	
	中	17.8	16.9	0.9	22.7	22.1	0.6	12.8	11.7	1.1	93	27	66	4	4	0	42.0	52.5	△ 10.5	
	下	13.7	13.8	△ 0.1	19.4	19.0	0.4	8.0	8.6	△ 0.6	41	39	2	2	4	△ 2	53.5	53.3	0.2	
10	上	14.0	12.3	1.7	19.2	17.3	1.9	8.8	7.3	1.5	6	51	△ 46	3	5	△ 2	51.0	45.7	5.3	
	中	8.8	10.2	△ 1.4	13.6	15.4	△ 1.8	4.0	5.0	△ 1.0	58	27	31	7	5	2	33.7	46.9	△ 13.2	
	下	8.7	7.8	0.9	12.9	12.4	0.5	4.4	3.3	1.1	47	49	△ 2	4	6	△ 2	34.6	41.6	△ 7.0	
11	上	6.7	6.5	0.2	12.2	10.8	1.4	1.2	2.2	△ 1.0	52	43	9	5	7	△ 2	28.8	33.1	△ 4.3	
	中	1.0	3.0	△ 2.0	4.6	6.4	△ 1.8	-2.6	-0.5	△ 2.1	26	45	△ 20	5	7	△ 2	20.6	22.8	△ 2.2	
	下	2.4	0.1	2.3	5.9	3.4	2.5	-1.1	-3.2	2.1	41	34	7	8	6	2	21.2	18.2	3.0	
12	上	-0.5	-2.5	2.0	2.2	0.7	1.5	-3.2	-5.2	2.0	63	26	37	7	6	1	17.7	19.8	△ 2.1	
	中	-3.2	-4.7	1.5	0.5	-1.2	1.7	-6.8	-8.0	1.2	30	21	9	5	6	△ 1	24.7	16.4	8.3	
	下	-5.4	-5.7	0.3	-1.5	-2.0	0.5	-9.2	-9.2	0.0	22	25	△ 3	8	8	0	22.7	20.1	2.6	
5～9月積算			2725.2	2672.7	52.5	3460.5	3400.1	60.4	1892.1	1935.5	46.6	539	529	10	53	50	3	791.3	813.6	△ 22.3
平年比(%)			102.0	101.8		102.4	101.9		101.9	106.0		97.3								

注1 滝川地域気象観測所のAMeDAS観測値。注2 日照時間は太陽電池式(新型)による。注3 平年値は前10カ年の平均値。注4 △印は減を示す。

季節調査

	平成24年					平成25年								
	初霜	降霜始	根霜始	根霜終	根霜期	降霜終	最大積	左起日	耕鋤始	晩霜	初霜	無霜期	降霜始	根霜始
	月.日	月.日	月.日	月.日	間(日)	月.日	雪深cm	月.日	月.日	月.日	月.日	間(日)	月.日	月.日
本年	10.25	11.16	11.16	4.17	153	4.19	(141)	(3.10)	5.9	4.21	10.17	178	11.8	11.27
平年	10.2	11.3	11.23	4.13	142	4.21	115	2.16	5.4	5.8	10.20	164	11.5	11.24
比較	23	13	△ 7	4	11	△ 2	-	-	5	△ 17	△ 3	14	3	3

注1 花・野菜技術センター観測資料による。ただし、かっこ内は滝川地域気象観測所のAMeDAS観測値。

注2 平年値は前10カ年の平均値。注3 △印は減または早を示す。

Ⅲ 事業の推進方向と成果の概要

1. 研究部

(1) 花き野菜グループに関する試験

花きでは、品種特性調査および栽培法改善試験を実施する。野菜では、いちご・メロンの新品種育成、野菜の品種特性調査および栽培法改善試験を実施する。花きおよび野菜とともに、技術研修Gの技術研修を分担する。

①「輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術の開発」では、無側枝性輪ぎく「精の一世」の秋季出荷作型の安定栽培に向けた再電照、施肥、病害虫の留意点をまとめた。②「市場クレームに対応した切り花ダリアの品質管理技術の確立」では、市場クレームの発生要因解明、前処理および輸送方法の改善に対応する試験を行った。③「野菜地域適応性検定のうち、いちごでは、「空知34号」、「空知35号」を継続検討することとし、加えて次年度に向け、「空知36号」を定植した。メロンでは、「空知交23号」を継続検討と判定した。たまねぎでは、「カロエワン」(北交1号)が優良品種に認定された。④「トマトの秋季安定生産に向けた3段密植栽培技術の確立」では、セル成型苗直接定植を利用する出荷ピークを9月に設定する作型を開発し、その栽培法を示し、指導参考事項に認定された。⑤「春どり作型向け多収性いちご新品種の育成」では、「けんたろう」並の果実品質を有する春どり作型向け多収性いちご品種を目標に、交配および系統育成を行った。⑥「地中熱交換システムを活用した省エネルギー施設園芸技術の評価」では、いちご、ほうれんそう、バラ、デルフィニウム栽培時のシステムの利用適性を評価し、研究参考事項に認定された。⑦「たまねぎ有機栽培用育苗培土の利用技術の実・普及」では、有機栽培用育苗培土(平成22年指導参考事項)の普及・定着を図る調査を実施し、完了した。⑧「夏秋期の早期出荷による道産シェア拡大に向けた8、9月どり露地ねぎの品種特性」では、17品種・系統について、9月どり作型で試験を実施した。⑨「北海道ブランドかぼちゃ品種の生産促進実証」では、北海道ブランドに選定された品種が導入された2地区において、現地調査を実施した。⑩「共同育成した赤肉メロンF1系統および親系統の特性評価」

では、「空知交23号」およびその親系統の特性を調査した。⑪「カボチャの国内産端境期供給を目指した安定生産技術の開発」では、かぼちゃの長期貯蔵性検討と想定する新作型の安定性を確認するため、次年度に成績をとりまとめる。⑫「施設園芸における熱エネルギーの効率的利用技術の開発」では現地圃場に機器を設置して、試験を開始した。⑬「平成25年度カボチャの育成系統評価に係る栽培、調査業務」では、「ジェジェJ」(北渡交3号)、「北渡交4号」の特性を評価した。⑭「花き品種の適応性比較試験」では、一般社団法人日本種苗協会主催による「第59回全日本花卉品種審査会スターチス(シヌアータ・夏咲き)の部」が開催され、一等特別賞に「HB1006」(住化農業資材(株))、二等に「スターエーゼ」(福花園種苗(株))、三等に「セイシャルスカイ」(住化農業資材(株))、「ダイナミックバイオレット」(ミヨシ(株))が選ばれた。⑮「日持ち保証に対応した切り花品質管理技術の普及を目的とした現地実証」では、道内産地で生産・出荷されたカーネーション切り花の輸送実証を行った。⑯「種子イチゴイノベーションに向けた栽培体系と種苗供給体制の確立」では、「系統23」の北海道における花成反応を明らかにするとともに、高温・長日条件で経過する北海道の高設栽培夏秋どり作型の本圃直接定植法を検討する。⑰「農業資材試験」では、たまねぎに対する除草剤2点の成績をとりまとめた。

(2) 生産環境グループに関する試験

生産環境グループは、花き・野菜の肥培管理や貯蔵・流通等の栽培環境に関する試験および病害虫に関する試験を実施している。また、技術研修グループで実施する地域支援課題や技術研修を分担する。

栽培環境に関する試験:①「輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術の開発」では、無側枝性輪ぎく「精の一世」の窒素吸収特性を解析し、適切な分施肥技術を確立した。花き野菜グループより「輪ぎく「精の一世」の秋季出荷安定栽培法」としてとりまとめ、指導参考事項となった。②「施設土壌の養分過剰を軽減するための堆肥施用指針の策定」では、水田転換ハウスの養分過剰を軽減す

るため、ハウスへの堆肥施用を休止する基準や留意事項を明らかにし、「水田転換ハウスにおける土壌養分適正化のための堆肥施用指針」としてとりまとめ、指導参考事項となった。③「生理障害診断試験」では、7件の診断依頼に対応した。④「北海道におけるさつまいも導入に向けた品種特性評価および栽培技術開発」では、寒冷地に適した栽培管理技術を明らかにするため、作型、栽植密度苗の挿し方等を変えて栽培し、収量、品質、窒素吸収量などへの影響を調査するとともに、収穫後の貯蔵法について検討した。⑤「農業農村整備事業に係る土壌調査」では、3地区7点の土壌調査を実施し、各土壌の特徴と改良対策を示した。⑥「カボチャの国内産端境期供給を目指した安定生産技術の開発」では、作型や栽培方法を変えて栽培・収穫した果実につき、腐敗果発生率や乾物率等を調査した。⑦「MA包装フィルム「Xtend」によるブロッコリーおよびメロンの鮮度保持特性の評価」では、「Xtend」で密封した道産ブロッコリーの鮮度保持特性を貯蔵温度を変えて調査した。⑧「短節間かぼちゃに対する短期溶出タイプ肥効調節型肥料の施肥法の確立」では、分施を省略できる短節間かぼちゃに適した肥効調節型肥料を明らかにし、「短節間かぼちゃに対する肥効調節型肥料の施用技術」としてとりまとめ、指導参考事項となった。⑨「ハウス軟白ネギに対するけい酸加里肥料の施用効果」では、けい酸カリが硫酸カリに比べて肥効が同等で、かつ土壌EC値を低くする効果があることを明らかにし、「ハウス軟白ネギに対するけい酸加里の施用効果」としてとりまとめ、指導参考事項となった。⑩「露地春まきネギに対する被覆窒素肥料「セラコートR」の施用効果」では、5段階に溶出状況を変えた被覆窒素肥料を全量作条施用して栽培し、生育や収量を調査し、分施を伴う通常の施肥と比較検討した。⑪「農業資材試験」では、1点の肥料資材についてその効果を調査した。⑫「農地管理実態調査」では、8地区20点の土壌を調査した。

病害虫に関する試験：①「採苗施設と水田転換畑を利用したいちごの自立型新採苗方式の確立」では、炭疽病を分担し、各増殖段階の苗の炭疽病保菌状況を調査し、従来のリレー苗方式よりも感染リスクが低いことを確認し、中央農試において「採苗施設と水田転換畑を利用したいちごの自立

型採苗方式における病害虫管理指針」としてとりまとめ、指導参考事項となった。②「輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術の開発」では、病害虫の防除対策を分担し、主要病害虫と防除上の留意点を、また、提案する技術の再電照技術や分施方法の違いによる病害虫発生状況への影響を明らかにした。花き野菜グループより「輪ぎく「精の一世代」の秋季出荷安定栽培法」としてとりまとめ、指導参考事項となった。また、本試験で行った灰色かび病の有効薬剤4点が指導参考となった。③「すいかの炭疽病防除対策の確立」では、主産地での発生状況を調査し、場内試験では伝染源の検討、通路マルチの種類と発病との関係および薬剤の効果を検討した。④「農作物病害虫診断試験」では、115件の診断依頼に対応した。⑤「アスパラガスのツマグロアオカスミカメに対する総合防除対策」では、春に発生する幼虫密度は前年の株養成期の防除により減少でき、前年秋季の茎葉搬出を行うことによりさらに減少できることを明らかにした。株養成期の防除処理時期についてさらに検討を加えて成績をとりまとめる予定である。⑥「たまねぎ突発性病害の灰色腐敗病およびべと病に対する効率的防除体系確立」では、病原菌の接種時期や根切り・収穫時期と発病の関係および防除適期や回数を調査するとともに、現地での発生状況や栽培・防除暦を調査した。⑦「病害虫発生予察調査」では、ねぎのべと病とさび病、予察灯によるヨトウガ等、フェロモントラップによるコナガについて、時期ごとの発生量などを調査した。⑧「農業資材試験」では、殺菌剤16点および殺虫剤6点についてその効果を調査した。また、複数事例で有効性が認められた15点の資材が指導参考事項となった。

(3) 技術研修グループに関する試験

技術研修グループは、地域農業技術支援会議に集められたニーズなど、現地実証が必要な課題について支援を行うとともに、これまでの成果を普及するために現地実証試験等を行っている。

革新的技術導入による地域支援：①「北空知地域におけるスターチス・シヌアータの品質保持技術の実証」では、ポストハーベスト実態調査を行い、選花場や集荷場の環境改善を提案した。また、温度と黄化程度の間関係を精査し、商品性が限界に至る温度条件を明らかにするとともに、輸送試験

によりその妥当性を実証した。さらに、品種のスクリーニングにより主要品種の黄化の難易を評価するとともに、採花の遅れが黄化を助長することを明らかにした。

2. 技術普及室

(1) 推進方向

技術普及室は、地域の試験研究に対する要望を的確に把握し、実用的な技術開発を行うとともに、その迅速な普及・定着を普及組織と一体的に推進するために、技術体系化チーム活動、地域農業の支援（地域農業技術支援会議）、農業改良普及センターへの技術支援を3つの柱として、花き・野菜研修事業および農業大学の研修事業の支援も含めて研究部門、農業改良普及センター、振興局および関係する機関団体と連携を図り活動を展開した。

(2) 成果の概要

1) 地域農業技術支援会議への支援

空知総合振興局の地域農業技術支援会議構成員として参画し、農業研究本部技術普及室・普及センター・振興局と連携し専門場の研究および普及の立場から、花きと野菜に関する課題整理や解決方策について積極的に支援した。三者会議・関係者会議の他、普及センターが主体となったモデル地区の課題解決プロジェクトに参画した。

2) 農業改良普及センター支援と普及指導員研修

普及センターからの支援要請について、専門項

目に関する補完要請計画に基づき支援した。

また、普及センターが取り組む普及活動に関する要請（重点課題、一般課題等）についても、管轄農試技術普及室と連携し積極的に技術支援を行った。

さらに、気象災害や突発的な病害虫発生対策について技術普及課および各技術普及室と連携を取りながら迅速に対応した。

普及指導員研修については、花・野菜技術センターで実施する道段階研修の新任者早期養成研修、専門技術研修（花き、野菜）、高度専門技術研修（花き、野菜）について技術普及室のほか研究部からの講義・実習等の協力も得て実施し、振興局段階や職場段階での研修についても積極的に支援した。

3) 研修事業への支援

花き・野菜技術研修事業における講義・実習および運営等に関する支援を実施した。

その他の研修として、農業大学校等との協力連携による経営管理研修や担い手基礎研修、農大稲作経営コース集中講義の研修に支援を行った。

4) その他

営農技術対策の提供や各種事業への助言など、生産者組織や関係機関・各種団体からの要請への支援等を行った。

IV 試験研究および地域支援等活動の課題名

1. 花き野菜に関する試験

(1) 輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術の開発 (213231)

試験期間：平成23～25年

担当G：花き野菜G、生産環境G

目的：無側枝性輪ぎくの秋季出荷作型における開花調節法、肥培管理法および病害虫対策技術を確立する。

(2) 市場クレームに対応した切り花ダリアの品質管理技術の確立 (213251)

試験期間：平成25～27年

担当G：花き野菜G

目的：ダリアの市場クレームに対応する前処理技術および市場出荷方法の改善技術を確立する。

(3) 野菜地域適応性検定（いちご、メロン、たまねぎ） (213300)

試験期間：昭和63年～

担当G：花き野菜G、上川農試、道南農試、十勝農試、北見農試

目的：育成系統について各地域における適応性を検討し、新品種育成のための資料を得る。

(4) トマトの秋季安定生産に向けた3段密植栽培技術の開発 (213333)

試験期間：平成23年～25年

担当G：花き野菜G、中央農試

目的：高単価が期待できる9月以降に収穫を開始し第3果房まで収穫する3段密植栽培技術の開発を行うとともに、開発技術の導入による経営改善効果を検証する。

(5) 春どり作型向け多収性いちご新品種の育成 (213351)

試験期間：平成25～29年

担当G：花き野菜G、生産環境G

目的：「けんたろう」並の果実品質を有する春どり作型向け多収性いちご品種（現行基準収量：2t/10a→目標収量：2.5t/10a）を育成する。

(6) 地中熱交換システムを活用した省エネルギー施設園芸技術の評価 (513211)

試験期間：平成23～25年

担当G：花き野菜G

目的：道内の民間企業が開発した地中熱交換システムについて、施設園芸（野菜、花き）での利用方法、効率的な冷房、暖房方法の検討、作物に対する冷房、暖房効果の確認をする。

(7) たまねぎ有機栽培用育苗培土の利用技術の実証・普及 (325631)

試験期間：平成23～25年

担当G：花き野菜G、北見農試

目的：有機栽培用育苗培土（平成22年指導参考事項）の普及・定着を図るべく、残された課題を解決し、培土を安定的に固化させ移植精度をさらに高める方法を提示する。

(8) 夏秋期の早期出荷による道産シェア拡大に向けた8、9月どり露地ねぎの品種特性 (333331)

試験期間：平成25～26年

担当G：花き野菜G、技術研修G、道南農試

目的：民間種苗会社と提携して民間育成品種の評価を行い、北海道向けブランド品種を選定する。

(9) 北海道ブランドかぼちゃ品種の生産促進実証 (333352)

試験期間：平成25～26年

担当G：花き野菜G

目的：選定されたブランド品種の大規模試作と貯蔵の実証試験を行い、収穫時以降の管理工程上の問題点を整理して、冬至出荷に向けたマニュアルを整備する。

(10) 共同育成した赤肉メロンF1系統および親系統の特性評価 (513351)

試験期間：平成25年

担当G：花き野菜G

目的：民間種苗会社との共同研究により、土壌病害に抵抗性を持ち、北海道で安定して栽

培できる高品質な赤肉品種を育成する。

(11) カボチャの国内産端境期供給を目指した安定生産技術の開発 a. 北海道の露地抑制作型における栽培法の開発と貯蔵性との関係説明 (623332)

試験期間：平成23～25年

担当G：花き野菜G、生産環境G

目的：かぼちゃの端境期である12～1月の出荷に向け、北海道道央地区における露地抑制作型の収穫限界を明らかにするとともに、本作型で懸念される一果重の低下を回避する栽培法を開発し、また(独)農研機構北海道農業研究センターが育成した高貯蔵性系統の本作型における適応性を検討する。

(12) 施設園芸における熱エネルギーの効率的利用技術の開発 (627351)

試験期間：平成25～27年

担当G：花き野菜G

目的：寒冷地園芸施設向けの低コストで実用的な地中熱ヒートポンプシステムの開発および評価を行う。

(13) 平成25年度カボチャの育成系統評価に係る栽培、調査業務 (713351)

試験期間：平成25年

担当G：花き野菜G

目的：独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構において育成されたかぼちゃ系統について、道内における標準栽培法によりその適応性を検討する。

(14) 花き品種の適応性比較試験 (723251)

試験期間：平成25年

担当G：花き野菜G

目的：本道に向けた民間の品種開発が活発な品目について、適応性の比較検討を行い、本道に適した優良な新品種の選択および導入、普及の促進に資する。

(15) 日持ち保証に対応した切り花品質管理技術の普及を目的とした現地実証 (623251)

試験期間：平成25年

担当G：花き野菜G

目的：道内産地で生産・出荷されたカーネーション切り花を用いて、日持ち保証に対応した切り花品質管理技術の普及を目的とした現地実証を行う。

(16) 種子イチゴイノベーションに向けた栽培体系と種苗供給体制の確立 1. 新品種の花成特性解明と本圃直接定植法の確立 (7) 北海道における花成反応の解明と活用 (623351)

試験期間：平成25～27年

担当G：花き野菜G

目的：機関連携試験による「系統23」の基礎的花成特性解明のため、北海道における花成反応を明らかにするとともに、低温期に育苗、定植し、その後の栽培期間が高温・長日条件で経過する北海道の高設栽培夏秋どり作型の本圃直接定植法を確立する。

(17) 農業資材試験 (729400)

試験期間：昭和40年～

担当G：花き野菜G

目的：野菜に対する除草剤、生育調節剤の実用性を検討する。

2. 栽培環境に関する試験

(1) 輪ぎくの秋季出荷作型における安定栽培技術の確立 (213231)

試験期間：平成23年～25年

担当G：花き野菜G、生産環境G

目的：無側枝性輪ぎくの秋季出荷作型における開花調節法、肥培管理法および病害虫対策技術を確立する。

(2) 施設土壌の養分過剰を軽減するための堆肥施用指針の策定 (215341)

試験期間：平成24年～25年

担当G：生産環境G

目的：施設土壌の養分過剰を軽減するため、堆肥を連用した土壌の養分蓄積状態を明らかにし、堆肥中の養分濃度に応じた堆肥施用指針を

策定する。

(3) 農作物病害虫診断試験 ②生理障害診断試験 (216500)

試験期間：平成8年～

担当G：生産環境G

目的：農業改良普及センター、農政部普及指導員を通じて当場に診断を依頼される農産物の生理障害による異常障害などを迅速に診断して、被害を最小限にとどめるための適切な対策を策定する。

(4) 北海道におけるさつまいも導入に向けた品種特性評価および栽培技術開発 (333341)

試験期間：平成24～26年

担当G：生産環境G

目的：寒冷地で栽培するさつまいもについて、道外産並の収量と品質を確保する栽培法・貯蔵法を明らかにし、道内での栽培の定着・産地支援を図る。

(5) 農業農村整備事業等に係る土壌調査 (455900)

試験期間：昭和40年～

担当G：生産環境G、各農試の同Gと分担

目的：土地改良計画地域の土壌を実施し、必要な改良指針を策定する。

(6) カボチャの国内産端境期供給を目指した安定生産技術の開発 (623332)

試験期間：平成23年～25年

担当G：花き野菜G、生産環境G

目的：露地抑制作型における収穫期頃の積算温度・最低気温や果実の貯蔵性の成分変化を調査し、貯蔵性との関係を解明し、道央地区における露地抑制栽培の収穫限界時期を明らかにする。また、当作型での一果重の低下を回避するための栽培法や高貯蔵性な新育成系統の適応性を検討する。

(7) MA包装フィルム「Xtend」によるブロッコリーおよびメロンの鮮度保持特性の評価 (72335X)

試験期間：平成25年

担当G：生産環境G、花き野菜G

目的：MA包装鮮度保持フィルム「Xtend」による鮮度保持効果について、道産ブロッコリーの道外移出および道産赤肉メロンを12月に出荷するための一方法として明らかにする。

(8) 短節間カボチャに対する短期溶出タイプ肥効調節型肥料の施肥法の確立 (725341)

試験期間：平成24年～25年

担当G：生産環境G

目的：短節間カボチャの養分吸収特性に対応した肥効調節型肥料による効率的施肥法を開発し、分施の省略と収量の安定化を図る。

(9) ハウス軟白ネギに対するけい酸加里肥料の施用効果 (725331)

試験期間：平成23年～25年

担当G：生産環境G

目的：ハウス栽培における軟白ネギの収量および品質に対するけい酸加里肥料（園芸用粒タイプ）の施用効果を評価する。

(10) 露地春まきネギに対する被覆窒素肥料「セラコートR」の施用効果 (725351)

試験期間：平成25～27年

担当G：生産環境G

目的：ネギ省力安定生産のために露地春まきネギに対する被覆窒素肥料の施用効果を検討し、全量基肥栽培を可能とする銘柄を選定する。

(11) 農業資材試験 (729400)

試験期間：昭和45年～

担当G：生産環境G

目的：肥料および土壌改良材の野菜に対する実用性について検討する。

(12) 農地管理実態調査 (735951)

試験期間：平成25年～32年

担当G：生産環境G、各農試の同Gと分担

目的：全国の農耕地における土壌炭素の貯留量と営農管理による変動を明らかにする一環として、北海道の農耕地で調査を行う。

3. 病害虫に関する試験

(1)採苗施設と水田転換畑を利用したいちごの自立型新採苗方式の確立 (126331)

試験期間：平成23～25年

担当G：生産環境G、中央農試

目的：茎頂培養親株を元に、採苗施設と水田転換畑を組み合わせたいちごの自立型新採苗方式において、病害の感染リスク評価と媒介虫動態の解明に基づく病害虫管理マニュアルと栽培マニュアルを組み合わせた優良親株栽培マニュアルを作成し、その有効性を実証する。

(2)輪ぎくの秋季出荷作型における安定生産技術の確立 (213231)

試験期間：平成23～25年

担当G：生産環境G、花き野菜G

目的：無側枝性輪ぎくの秋季出荷作型における開花調節法、肥培管理法および病害虫対策技術を確立する。

(3)すいかの炭疽病防除対策の確立 (216342)

試験期間：平成24～26年

担当G：生産環境G

目的：北海道の栽培に対応したすいかの炭疽病防除対策を確立する。

(4)農作物病害虫診断試験 ①突発及び病害虫診断試験 (216500)

試験期間：昭和50年～継続

担当G：生産環境G

目的：突発的に発生する病害虫による被害を防止するため、それらの診断を行うと共に、道内で新たに発生した病害虫の情報を記録し、蓄積する。

(5)アスパラガスのツマグロアオカスミカメに対する総合防除対策 (326331)

試験期間：平成23～25年

担当G：生産環境G

目的：アスパラガスのツマグロアオカスミ

カメの発生生態を解明し、耕種的防除も含めた総合的な防除対策を確立する。

(6)たまねぎの突発性病害の灰色腐敗病およびべと病に対する効率的防除体系確立 (426331)

研究期間：平成23～26年

担当G：生産環境G

目的：たまねぎで突発的に多発生する灰色腐敗病およびべと病の多発条件を明らかにし、効率的な防除体系を確立する。当場では灰色腐敗病を担当している。

(7)病害虫発生予察調査 (426500)

研究期間：昭和16年～継続

担当G：生産環境G

目的：各地の病害虫発生状況と気象等を踏まえて病害虫の発生を予察し、効率的な防除に資する。当場ではねぎの病害および各種害虫の誘殺状況を調査する。

(8)農業資材試験 殺菌・殺虫剤 (729400)

研究期間：昭和45年～継続

担当G：生産環境G

目的：新しい殺菌剤および殺虫剤の花き・野菜の病害虫に対する防除効果と薬害の有無ならびにその実用性を検討する。

4. 技術体系化に関する試験

本年は該当なし

5. 地域支援に関する試験等

(1)北空知地域におけるスターチス・シヌアータの品質保持技術の実証 (314125)

試験期間：平成24～25年

担当G：技術研修G

目的：スターチス・シヌアータにおける茎葉の黄化症状の発生要因を解明し、品質保持技術の実証を行う。

V 研修事業の概要

1 概要

本道における花き・野菜の生産振興を支援するため、新技術（品種）の迅速な普及定着や生産を担う人材の育成等を目的とした技術研修を実施した。

2 研修事業の推進

北海道花き・野菜技術研修に対する理解を深めるため、農政部関係課・農業高校・農業改良普及センター、市町村等に対し事業説明を実施するとともに、各種見学説明会等を開催したほか、円滑な研修の実施に資するため、場内に専門委員会（研修事業運営委員会）を設置し、計画の策定、実施・運営等についての検討・調整を行った。

(1) 研修事業説明の経過

○5月10日

平成25年度農業部会総会・第1回学校研究協議会
(北海道高等学校校長協会農業部会)

○11月23日

新・農業人フェア2013（札幌会場）

○1月21日

新規参入予定者（新規参入者研修（農大））

○1月17日

新規参入予定者（ベーシックセミナー）

○2月27日

平成26年度地域農業技術センター連絡会議研究交流会

(2) 事業課との打合せ

○7月9日

相手方 北海道農政部農業経営課、空知総合振興局農務課、農業研究本部

内容 研修事業の概要説明、検証状況の視察、意見交換

○3月14日

相手方 北海道農政部農業経営課、農業研究本部

内容 H25研修事業結果とH26研修事業予定の説明、意見交換

(3) 専門委員会開催内容

1) 研修事業運営委員会の構成

(平成25年4月現在)

委員長 川岸康司（技術研修G研究主幹）

副委員長 小田義信・鈴木亮子（技術研修G）

委員 白木和美・小田文子（総務課）、黒島学・福川英司（花き野菜G）、林哲央・橋本直樹（生産環境G）

アドバイザー 藤田寿雄（上席普及指導員 技術普及室）、宮町良治（主任普及指導員 技術普及室）

事務局 得能徹・熊谷美希（技術研修G）

2) 開催内容

○第1回委員会（12月24日）

・報告事項

(1) 平成25年度花・野菜ベーシックセミナーについて

(2) トマトセミナー（仮称）の開催について

・協議事項

(1) 花・野菜新技術セミナー2014について

○第2回委員会（1月27日）

・協議事項

(1) 花・野菜新技術セミナー2014について

(2) トマトセミナー2014について

○第3回委員会（3月18日）

・報告事項

(1) 平成25年度研修事業実績について

(2) 平成26年度総合技術研修受講予定者について

・協議事項

(1) 平成26年度研修事業（案）について

(2) 平成26年度総合技術研修カリキュラム（案）について

3 北海道花き・野菜技術研修

(1) 専門技術研修

生産者、技術指導者を対象に、高度な専門技術の習得を目的として、課題解決や各種分析技術等についての個別指導を行った。

1) 専門技術研修受講者数

区 分	受講者数
花き栽培コース	—
野菜栽培コース	1名
土壌肥料コース	3名
病害虫コース	(2)名
合 計	4名

2名は、土壌肥料・病害虫両コース受講

2) 専門技術研修受講者および研修内容

氏 名	所 属	期 間	主な研修内容
谷口正樹	ホクレン	5/20～7/12	土壌診断と病害虫防除技術
梨本健紘			
金濱有志	ホクレン	6/3～8/30	野菜栽培管理と園芸資材取扱い
前田彩花	大学	11/3～11/4	いちごの作物体分析

(2) 総合技術研修

生産者、技術指導者を対象に、基礎知識から実践技術までの習得を目的として編成したカリキュラムに基づき総合的な指導を行った。

1) 期間

4月10日～10月9日 (6ヶ月間)

2) 受講者数

花きコース —

野菜コース 8名

3) 総合技術研修の受講者

氏 名	所属等	備 考
蛭澤 慎平	札幌市	野菜コース
西出 貴嗣	芦別市	野菜コース
久恵 一徳	恵庭市	野菜コース
本多 友拓	旭川市	野菜コース
本多 知美	旭川市	野菜コース
鷺津 宇内	赤平市	野菜コース
北島 真吾	樺南NOSA1	野菜コース
杉田 永久	広尾町	野菜コース

4) 総合技術研修の実施内容

区 分	主な内容(講師)	時 間
講 義	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌肥料(林主査(生産環境G)) ・病害虫防除(角野研究主幹、橋本主査、西脇研究主査(生産環境G)) ・施設資材利用等(外部講師) ・主要野菜栽培技術等 (田中研究主幹、福川主査、大久保研究主任、八木研究主任、木村研究主任(花き野菜G)、宮町主任普及指導員(技術普及室)、小田主査(技術研修G)) <ul style="list-style-type: none"> ・雑草防除の基礎(岸田職員) ・土壌の生成および土壌改良(野田研究主任(生産環境G)) ・青果物鮮度の内部品質と保持(田丸研究主査(生産環境G)) ・経営管理(外部講師) ・クリーン農業(外部講師) ・農業金融制度(空知総合振興局) ・その他(田中場長、長尾研究部長、藤田上席普及指導員(技術普及室)、田中研究主幹(花き野菜G)) 	野菜 70時間
演 習	<ul style="list-style-type: none"> ・主要野菜栽培等 (田中研究主幹、福川主査、大久保研究主任、八木研究主任、木村研究主任(花き野菜G)、宮町主任普及指導員(技術普及室)、小田主査(技術研修G)) ・土壌診断等(野田研究主任(生産環境G)) ・病害虫防除技術(角野研究主幹、橋本主査、西脇研究主査(生産環境G)) ・ハウス組立(梶山主任ほか) 	野菜 108時間
実 習	<ul style="list-style-type: none"> ・主要野菜の栽培管理(野菜15品目(講師は講義・実習と同じ)) ・ハウス組立(梶山主任ほか) 	野菜 521時間
視 察	卸売市場、先進農家等	野菜 28時間
その他	ミーティング、栽培計画書作成、報告書作成等	野菜 148時間
合 計		野菜 875時間

(3) 基礎技術研修（ベーシックセミナー）

花きおよび野菜栽培を志向する新規就農者等の支援を目的に、花き・野菜栽培に関する基礎知識や技術についての指導を行った。

1) 期間

1月27日～1月31日（5日間）

2) 受講者数

花きコース 2名

野菜コース 12名

3) 基礎技術研修の実施内容

講義名	時間	講師
花き・野菜栽培概論	花き 2時間 野菜 2時間	生方主任研究員 田中研究主幹(花き野菜G)
主要品目の栽培技術	花き 10時間 野菜 10時間	生方主任研究員、黒島主査、大宮研究主査(花き野菜G)、鈴木主査(技術研修G) 福川主査、大久保研究主任、八木研究主任、木村研究主任(花き野菜G)、宮町普及指導員(技術普及室)、小田主査(技術研修G)、林主査(生産環境G)
土壌改良と施肥管理	3時間	角野研究主幹、橋本主査(生産環境G)
病害虫	2時間	外部講師
園芸施設資材の特性と利用技術	2時間	黒島主査(花き野菜G)
花きの輸送と鮮度保持	花き 2時間	田丸研究主査(生産環境G)
野菜の流通と内部品質	野菜 2時間	外部講師
農地制度の基礎	1時間	外部講師
経営管理概論	3時間	農業者ほか
新規就農者の経営事例	2時間	〃ほか
総合討論	2時間	田中場長、藤田上席
花・野菜技術センターの概要、技術開発と普及	1時間	普及指導員(技術普及室)
計	花き野菜 各30時間	

(4) 課題解決研修

農業試験場が開発した技術や品種の迅速な普及定着、生産技術の高位平準化、産地の育成等を目的とした各種セミナーの開催や短期受入れ研修を実施した。

○フォローアップセミナー

花き・野菜技術研修の過年度修了者を対象に、技術支援および研修修了者と現研修生の情報交流を目的として開催した。

日時 平成25年6月27日（木）

場所 花・野菜技術センター 講堂

内容

- ・研究概要の紹介
- ・研修圃場の紹介
- ・意見交換

受講者数 16名

○フラワーリーダー養成講座

若手農業者を対象に、北海道（農政部農産振興課）と共催で、道外先進農家から指導を受ける講座を開催した。

日時 平成25年9月5日（木）・6日（金）

場所 生産者施設

花・野菜技術センター 講堂

内容

- ・講座「私のカーネーションの取り組み方」（講師：真鍋農園（香川県）代表 真鍋光裕氏）
- ・花・野菜技術センター試験ほ場見学
- ・現地見学～生産ほ場見学（浦白町、月形町）

受講者数 11名

○いちごセミナー2013

道内におけるいちごの安定生産に資するため、苗生産の現状と課題および最近の話題についての情報交換を行った。

日時 平成25年10月21日（月）・22日（水）

場所 かでる2.7（札幌市）

生産者ほ場（恵庭市、北広島市）

内容

講演

- ・いちご栽培における苗つくりの重要性

花・野菜技術センター

福川英司

- ・いちご苗生産の概要と販売状況
ホクサン(株) 米津幸雄氏
- ・豊浦町におけるいちご苗生産の現状と課題
胆振農業改良普及センター 土肥精司氏
- ・立地を活かした健全苺種苗の生産
JAそらち南 尾崎政春氏
- ・千葉県における北海道いちご苗の利用と今後の苗生産への期待
千葉県農林総合研究センター 水野真二氏
- ・清里町における府県向けいちご苗生産者の取り組み
清里町農業協同組合 山賀章子氏
- ・いちご苗生産に関する試験研究の取り組み
中央農業試験場 野津あゆみ

現地視察

- ・(株)スパル建設(恵庭市)
- ・ホクレン くるるの杜(北広島市)

受講者数 133名

(講演会: 127名、現地視察: 72名)

○トマトセミナー2014

トマト生産に係る新技術と病害対策の紹介および先進産地の現状と課題について発表し、出席者間で情報意見交換を行うために開催した。

日時 平成26年2月25日(火)

場所 たきかわ文化センター 小ホール

内容

講演

- ①9月キレイなトマトをたくさん採る栽培法
花・野菜技術センター 大久保進一
- ②夏の生産はもう大丈夫!新しい高糖度トマトのつくり方
上川農業試験場 地子立
- ③近年発生が目立つ青枯病と褐色根腐病の防除対策
花・野菜技術センター 西脇由恵
- ④北後志におけるミニトマト栽培の現状と課題について
後志農業改良普及センター 西村景氏
- ⑤平取町におけるトマト栽培の現状と今後の課題
日高農業改良普及センター 松浦準氏

受講者 219名

○花・野菜新技術セミナー2013

平成25年度に新たに開発した花・野菜の品種や栽培技術などの研究成果を農業関係者などに対して発表し、速やかな普及定着を図るため、開催した。

日時 平成26年2月25日(火)

場所 たきかわ文化センター 小ホール

内容 平成25年度の成績会議で普及奨励若しくは指導参考事項等となった技術(品種)等の伝達新技術伝達

- ①加工用たまねぎ新品種カロエワン
花・野菜技術センター 花き野菜G 研究主幹 田中静幸
 - ②9月にキレイなトマトをたくさん採る栽培法
花・野菜技術センター 花き野菜G 研究主任 大久保進一
 - ③お彼岸の白ぎくは、再電照で品質アップ
花・野菜技術センター 花き野菜G 主査 黒島学
 - ④地中熱を利用した北海道の野菜花き栽培
花・野菜技術センター 花き野菜G 主任研究員 生方雅男
 - ⑤緩効性肥料を上手く使って短節間かぼちゃを作ろう
花・野菜技術センター 生産環境G 研究主査 野田智昭
 - ⑥北海道発!隔離施設と転換畑でそだった健全ないちご苗 -新しい採苗方法の有効性検証-
中央農業試験場 クリーン病害虫G 研究職員 荻野瑠衣
 - ⑦スターチス・シヌアータの黄化クレームをなくすには?
花・野菜技術センター 技術研修G 主査 鈴木亮子
農業改良普及センターからの調査研究事例の紹介
- ①北空知で「スターチス・シヌアータの黄化クレームをなくすには?」を実践しました
空知農業改良普及センター 北空知支所 主査 小林孝夫氏
受講者 126名

(5)市民セミナー

消費者等を対象に、道産の花・野菜および当センターに対する理解を深めることを目的とした各種セミナーを開催した。

○市民園芸セミナー

日時 平成25年5月10日(金)

場所 花・野菜技術センター講堂

内容

- ・安心できる野菜づくり

(講師:技術普及室 宮町良治主任普及指導員)

参加者数 22名

○フラワーデザインセミナー

日 時 平成25年8月 6日 (火)
場 所 花・野菜技術センター (講堂)
内 容

- ・押し花額づくり教室
(講師：花工房「雅」 浅井万紀子 氏)
参加者数 30名

(6) その他の研修

○JICA研修員受入事業 (滝川市国際交流事業)

日 時 平成25年7月2日
場 所 花・野菜技術センター
内 容 花・野菜技術センターの概要等
参加者数 10名 (モザンビーク共和国)

○北海道大学大学院移動講義

日 時 平成25年7月12日
場 所 花・野菜技術センター
内 容
講義「バイオテクノロジーによる花き園芸植物の
育種」(講師：北海道大学准教授 中野優氏)
試験圃場視察
参加者数 27名

○自治体職員教育交流研修員受け入れ事業 (滝川市国際交流事業)

日 時 平成25年7月22日・25日
場 所 花・野菜技術センター
内 容 野菜栽培概論、病害虫、土壌肥料等
参加者数 2名 (モンゴル国)

○北海道大学研修生受入事業

日 時 平成25年8月1日～8月22日

場 所 花・野菜技術センター
内 容 ハウス熱環境の測定と解析
参加者数 3名

○農業大学校(稲作経営専攻コース)研修生受入事業

日 時 平成25年8月5日～8月9日
場 所 花・野菜技術センター
内 容 花・野菜技術センターの概要等
参加者数 10名

○インターンシップ「試験研究体験ゼミナール」

日 時 平成25年8月26日～8月30日
場 所 花・野菜技術センター
内 容 研究補助、作業体験等
参加者数 4名 (北海道大学学生)

○JICA研修員受入事業 (滝川市国際交流事業)

日 時 平成25年9月2日
場 所 花・野菜技術センター
内 容 花・野菜技術センターの概要等
参加者数 10名 (ベトナム社会主義共和国)

○養液栽培に係る合宿研修会 (道農政部農産振興課主催)

日 時 平成25年12月19日
場 所 花・野菜技術センター
内 容 千葉大学等における研修結果報告等
参加者数 13名

○農業大学校(新規参入者研修)研修生受入事業

日 時 平成26年1月21日～1月24日
場 所 花・野菜技術センター
内 容 園芸の最新技術と農業経営の現状等
参加者数 5名

4 研修ほ場等作付概要

区分	品 目	品 種	作 型
野菜	トマト	桃太郎ファイト、キャロル10	半促成
		桃太郎ファイト、麗夏、キャロル10、アイコ	ハウス雨よけ夏秋どり
	かぼちゃ	こふき、えびす、黒皮味マロン、くりゆたか7、TC2A(ほっとけ栗たん)	露地早熟
	レタス	マイヤー、シルル	春夏まき
	スイートコーン	みわくのコーンゴールドラッシュ、味来390 ピュアホワイト	露地直はん
	たまねぎ	スーパー北もみじ、北早生3号	春まき
	キャベツ	アーリーボール、藍春ゴールド	晩春まき
	ほうれんそう	サイクロン、ブライトン	春夏まき雨よけ、夏まき雨よけ
	だいこん	貴宮、晩抽喜太一	春まき、初夏まき
	メロン	ルピアレッド、G08、北かれん、ティアラ	無加温半促成
	いちご	エッチェス138(夏美)、ほほえみ家族	夏秋どり(高設栽培)
	ピーマン	さらら、みおぎ	半促成
	ブロッコリー	ピクセル、サマーポイント	晩春まき
	ねぎ	北の匠、白羽一本太	夏秋どり
	アスパラガス	ゼンユウガリバー、ガインリム、スーパーウエルカム	露地新植畑
スーパーウエルカム、ガインリム		ハウス新植畑	
ウエルカム、ガインリム他		露地	
ウエルカム、ガインリム		ハウス立茎	

注) 総合技術研修共通栽培品目のみ掲載。

VI 研究発表並びに普及事項

1. 研究報告・資料

(1) 研究報告

○福川英司. 道総研におけるたまねぎ有機栽培用育苗培土開発の取り組み. 北海道有機農業技術研究年報. 39-45(2013).

○福川英司・大久保進一・田中静幸. タマネギポット育苗体系における水分撥水防止剤ワターインのかん水浸透効果. 北農. 80:279-286(2013).

○室崇人・田中静幸・柳田大介・杉山裕. たまねぎ新品種「カロエワン」. 北農. 81:158(2014).

○田中静幸・平井剛・地子立. 上川北部地域におけるセル成型苗を利用したカボチャの安定生産技術. 北農. 80:381-386(2013).

○白井佳代・三澤知央. ジャガイモ夏疫病の塊茎での発生と発生程度の品種間差異. 北日本病害虫研究会報. 64:35-39(2013).

○Rahman M. Z., Uematsu S., Takeuchi T., Shirai K., Ishiguro Y., Suga H. and Kageyama K. Two new species, *Phytophthora nagaii* sp. nov. and *P. fragariaefolia* sp. nov., causing serious diseases on rose and strawberry plants, respectively, in Japan. *J. Gen. Plant. Pathol.* (Online 2014).

(2) 口頭発表

○福川英司・田中静幸. タマネギ有機栽培用育苗培土の固化剤散布方法の検討(第4報) 散布手法の検証と実用規模の散布検証. 北海道園芸研究談話会報. 47:72-73(2014).

○木村文彦・高濱雅幹・福川英司. イチゴ「きたのさち」の多収要因解析. 北海道園芸研究談話会報. 47:50-51(2014).

○黒島 学. 夏秋ギク型輪ギク「精の一世」の生殖成長期の再電照が花序形態および上位葉に及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 47:22-23(2014).

○黒島 学. 栽培期間中の相対湿度がデルフィニウム切り花の前処理液吸収量に及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 47:24-25(2014).

○黒島 学. 栽培期間中の相対湿度がデルフィニ

ウム切り花の前処理液吸収量、銀含量および気孔開度に及ぼす影響. 園芸学研究. 13(別1):

418.

○長野克則・山本和哉・生方雅男・岡本淳・菅原梨恵. 寒冷地園芸施設向けの低コストで実用的な地中熱提供方法の開発、その1 プロジェクトの全体概要と新型ヒートポンプの開発. 空気調和衛生工学会北海道支部第48回学術講演会(2014.3).

○長野克則・山本和哉・生方雅男・岡本淳・菅原梨恵. 寒冷地園芸施設向けの低コストで実用的な地中熱提供方法の開発、その2 実測結果と性能予測. 空気調和衛生工学会北海道支部第48回学術講演会(2014.3)

○大久保進一・東出忠桐・金子壮・安場健一郎・大森弘美・中野明正. トマト1段密植栽培における葉数の違いが収量に及ぼす影響. 園芸学研究. 13(別1):327(2014).

○大宮知. ユリ「ピカリ」のりん片繁殖子球による切り花栽培における定植時期が切り花品質に及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 47:16-17(2014).

○大宮知・湯本弘子・市村一雄・黒島学・田中静幸. 高温条件における後処理がカーネーション切り花の品質保持に及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 47:18-19(2014).

○八木亮治. 赤肉メロン品種「北かれん」の果実品温と果皮黄化の関係. 北海道園芸研究談話会報. 47:66-67(2014).

○林 哲央・江原 清・若宮貞人・木村文彦・大塚省吾. ミズナのハウス栽培における土壌可溶性有機態窒素を評価した窒素施肥量の削減. 日本土壌肥料学会講演要旨集. 59:134(2013).

○高濱雅幹・細淵幸雄・野田智昭・植野玲一郎・宗形信也. 土壌の種類によるさつまいも収量・品質への影響. 北海道園芸研究談話会. 47:32-33(2013)

○野田智昭・加藤桂一・林哲央. 雰囲気調整(MA)包装フィルム「Xtend」のプロッコリーに対する鮮度保持効果. 園芸学研究. 13-別冊1(2014).

○西脇由恵・真鍋照彦・鹿野 理. サンダーソニ

アに発生した根腐れ症状について. 第 67 回北日本病害虫研究会研究発表会 (2013. 2. 20 ポスター).

○橋本直樹・角野晶大・岩崎暁生・古舘卓朗・西村景・キム ワンギユウ・湯川淳一. 北海道におけるトマト・ミニトマトを加害するウロコタマバエ属の確認. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集. 58 : 120 (2014) .

○湯川淳一・キム ワンギユウ・橋本直樹・角野晶大・岩崎暁生. 旧北区各地で ほぼ同時に発見された トマトを加害するウロコタマバエの一種. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集. 58 : 120 (2014) .

○川名淳二・鈴木亮子・小林孝夫. スターチス・シヌアータの茎葉黄化抑制に対する品質保持剤の効果. 北海道園芸研究談話会報. 47 : 20-21 (2014) .

○北島真吾、川岸康司、小田義信、岸田幸也、宮町良治 降雹やエゾシカ食害を想定したエダマメの本葉切除処理が収量に及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 47 : 42-43 (2014) .

○北島真吾、川岸康司、小田義信、長尾明宣、岸田幸也、宮町良治 カボチャの収穫遅れが収量・品質へ及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会報. 47 : 44-45 (2014) .

(3) 著書・資料

○福川英司. いちご(1)きたのさち (道南 27 号) . “農作物優良品種の解説 (2005-2013) ” . 竹内徹ら編. 北海道立総合研究機構農業研究本部. (2014) 71. (北海道立総合研究機構農業試験場資料第 41 号) .

○福川英司. いちご(2)なつじろう (道南 29 号) . “農作物優良品種の解説 (2005-2013) ” . 竹内徹ら編. 北海道立総合研究機構農業研究本部. (2014) 71. (北海道立総合研究機構農業試験場資料第 41 号) .

○福川英司. かぼちゃ(1)TC2A. “農作物優良品種の解説 (2005-2013) ” . 竹内 徹ら編. 北海道立総合研究機構農業研究本部. (2014) 77. (北海道立総合研究機構農業試験場資料第 41 号) .

○福川英司. 種子の特性と品目に応じた育苗方法. “北海道の野菜づくり” . 北海道協同組合通信社. (2013) 22-27. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号)

刊号) .

○木村文彦. キャベツ. “北海道の野菜づくり” . 北海道協同組合通信社. (2013) 22-27. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号) .

○木村文彦. みずな. “北海道の野菜づくり” . 北海道協同組合通信社. (2013) 236-239. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号) .

○木村文彦. いちご. “北海道の野菜づくり” . 北海道協同組合通信社. (2013) 287-292. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号) .

○黒島 学. 施設の種類と設置. “北海道の野菜づくり” . 北海道協同組合通信社. (2013) 46-48. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号) .

○黒島 学. ピーマン. “北海道の野菜づくり” . 北海道協同組合通信社. (2013) 294-297. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号) .

○大久保進一. 養液土耕と養液栽培・栽培技術の基本. “北海道の野菜づくり” . 北海道協同組合通信社. (2013) 52-55. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号) .

○大久保進一. トマト (ミニ、中玉を含む) ・果菜類. “北海道の野菜づくり” . 北海道協同組合通信社. (2013) 156-161. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号) .

○大久保進一. ヤーコン・根菜類. “北海道の野菜づくり” . 北海道協同組合通信社. (2013) 276-277. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号) .

○田中静幸. 雑草対策と作物の生育調節. “北海道の野菜づくり” . 北海道協同組合通信社. (2013) 56-62. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号) .

○田中静幸. セルリー. “北海道の野菜づくり” . 北海道協同組合通信社. (2013) 318-320. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号) .

○八木亮治. 野菜の台木と接ぎ木. “北海道の野菜づくり” . 北海道協同組合通信社. (2013) 32-35. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号) .

○八木亮治. メロン. “北海道の野菜づくり” . 北海道協同組合通信社. (2013) 282-286. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号) .

○八木亮治. メロン (実とり用) FG14. “農作物優良品種の解説 (2005-2013) ” . 竹内 徹ら編. 北海道立総合研究機構農業研究本部. (2014) 73.

(北海道立総合研究機構農業試験場資料第41号)。
 ○八木亮治. メロン(実とり用)ゆめてまり. “農作物優良品種の解説(2005-2013)”. 竹内 徹ら編. 北海道立総合研究機構農業研究本部. (2014)73-74. (北海道立総合研究機構農業試験場資料第41号)。
 ○八木亮治. メロン(実とり用)北かれん. “農作物優良品種の解説(2005-2013)”. 竹内 徹ら編. 北海道立総合研究機構農業研究本部. (2014)74-75. (北海道立総合研究機構農業試験場資料第41号)。
 ○八木亮治. メロン(台木用)どうだい4号. “農作物優良品種の解説(2005-2013)”. 竹内 徹ら編. 北海道立総合研究機構農業研究本部. (2014)75-76. (北海道立総合研究機構農業試験場資料第41号)。
 ○八木亮治. メロン(台木用)どうだい6号. “農作物優良品種の解説(2005-2013)”. 竹内 徹ら編. 北海道立総合研究機構農業研究本部. (2014)76-77. (北海道立総合研究機構農業試験場資料第41号)。
 ○林 哲央. 畝立て技術と水管理. “北海道の野菜づくり”. 北海道協同組合通信社. (2013)49-51. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号)。
 ○野田智昭. 野菜の鮮度保持・貯蔵. “北海道の野菜づくり”. 北海道協同組合通信社. (2013)131-137. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号)。
 ○橋本直樹. 野菜の害虫と防除. “北海道の野菜づくり”. 北海道協同組合通信社. (2013)110-115. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号)。
 ○西脇由恵. 野菜の病害と防除. “北海道の野菜づくり”. 北海道協同組合通信社. (2013)104-109. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号)。
 ○西脇由恵. 野菜の土壌病害と防除. “北海道の野菜づくり”. 北海道協同組合通信社. (2013)116-120. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号)。
 ○角野晶大. ヒマワリ半身萎凋病. “農業総覧 原色花卉病害虫診断防除編 追録第12号”. 農山漁村文化協会. (2013)228の2-4。
 ○鈴木亮子(共同編集). 北海道野菜地図(その37). 北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業共同組合連合会編集発行. (2014)1-175。
 ○川岸康司. 気象から見た適品目・適作型. “北

海道の野菜づくり”. 北海道協同組合通信社. (2013)14-17. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号)。
 ○川岸康司. 花芽分化特性とその制御. “北海道の野菜づくり”. 北海道協同組合通信社. (2013)28-31. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号)。
 ○川岸康司. レタス. “北海道の野菜づくり”. 北海道協同組合通信社. (2013)298-301. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号)。
 ○小田義信. スイートコーン. “北海道の野菜づくり”. 北海道協同組合通信社. (2013)163-167. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号)。
 ○小田義信. ゆりね. “北海道の野菜づくり”. 北海道協同組合通信社. (2013)223-226. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号)。
 ○鈴木亮子. はくさい. “北海道の野菜づくり”. 北海道協同組合通信社. (2013)210-213. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号)。
 ○鈴木亮子. ハーブ類. “北海道の野菜づくり”. 北海道協同組合通信社. (2013)326-327. (ニューカントリー 2013 秋季臨時増刊号)。

(4) 専門雑誌・記事等

○福川英司. 有機栽培向け育苗培土の機械移植精度を高める一固化剤を低濃度で多回数散布. ニューカントリー. 60(6):18-20(2013)。
 ○福川英司. 農学校1年1組たまねぎの時間一[育苗管理]適切なかん水管理による出芽ぞろい促進がポイント. ニューカントリー. 61(3):48-49(2014)。
 ○木村文彦. ほうれんそうの機械収穫に有効な立性品種の密植栽培. ニューカントリー. 61(1):76-78(2014)。
 ○黒島学. 宿根かすみそうセル成形苗の直接定植栽培法. ニューカントリー. 60(12):52-53(2013)。
 ○八木亮治. カット加工に適した品種の選定. ニューカントリー. 60(8):56-57(2013)。
 ○林 哲央. 畑作物と野菜のリン酸肥料を節約できる. ニューカントリー. 60(4):16-18(2013)。
 ○林 哲央. 畑作物と野菜のリン酸肥料を節約できる!. 農家の友. 65(5):86-88(2013.5)。
 ○田丸浩幸. 被覆窒素または苦土炭カルを混合し

たBB肥料の施用効果. ニューカントリー. 60(5) : 58-59 (2013.5)

○野田智昭. 加工・業務向けかぼちゃ供給期間拡大に向けた貯蔵技術. ニューカントリー. 60(7) : 56-58 (2013.7)

○野田智昭. 加工・業務向けかぼちゃ供給期間拡大に向けた貯蔵技術. 農家の友. 65(8) : 26-28 (2013.8)

(5) 新聞記事・広報誌、放送等

○第59回全日本花卉品種審査会. スターチス(シニユータ・夏咲き). 種苗界. 9 : 37-39 (2013).

○第59回全日本花卉品種審査会. スターチス(シニユータ・夏咲き)の部. 日本種苗新聞. (2013.9.11)

○林 哲央. ハウス栽培での窒素施肥量を削減. 農業共済新聞. 5月3週号 : 11 (2013.5)

(6) 出願公表

○大波正寿・伊藤武・入谷正樹・田中静幸・千田圭一・池谷聡・藤田涼平・古川勝弘・江部成彦. バレイショ「リラチップ」(2013.11.22)

○室崇人・杉山慶太・嘉見大助・田中静幸・柳田大介・杉山裕. たまねぎ「カロエワン」(2014.2.5)

(7) 品種登録

(8) 受賞

○小倉玲奈・美濃健一・白井佳代. 生物農薬, 温湯消毒と催芽時食酢処理を組み合わせた体系処理によるイネ種子伝染性病害の効果的な防除. 第6回北日本病害虫研究会賞, 研究報文部門病害分野(2014.2)

2. 印刷刊行物

本年度はなし

3. 普及事項

(1) 普及奨励事項

本年度は該当なし

(2) 普及推進事項

本年度は該当なし

(3) 指導参考事項

○輪ぎく「精の一世」の秋季出荷安定栽培法

○秋季安定生産に向けたトマト3段どり栽培技術と経済性

○たまねぎに対する除草剤「AKD-7164水和剤」(低薬量への拡大)の実用化

○たまねぎに対する除草剤「ANK-553(改)乳剤」(高水量への拡大)の実用化

○水田転換ハウスにおける土壌養分適正化のための堆肥施用指針

○短節間かぼちゃに対する肥効調節型肥料の施用技術

○ハウス軟白ネギに対する「けい酸加里」の施用効果

○はくさいに対する葉面散布用カルシウム肥料「パワーリーフCa」の施用効果

○採苗施設と水田転換畑を利用したいちごの自立型採苗方式における病害虫管理指針

○にんじんの黒葉枯病に対する銅・バチルスズブチリス水和剤の効果

○キャベツの根こぶ病に対するアミスルプロム水和剤DFの効果

○キャベツの根こぶ病に対するフルアジナム水和剤Fの効果

○きゅうりのうどんこ病に対するイミノクタジンアルベシル酸塩・ピリベンカルブ水和剤DFの効果

○メロンのうどんこ病に対するフルチアニル乳剤の効果

○きくの灰色かび病に対するフルジオキシニル水和剤Fの効果

○きくの灰色かび病に対するペンチオピラド水和剤Fの効果

○きくの灰色かび病に対するポリオキシシン複合体水溶性の効果

○きくの灰色かび病に対するメパニピリム水和剤Fの効果

○チンゲンサイのキスジノミハムシに対するアセタミプリド粒剤(未登録)の効果

○ブロッコリーのアブラムシ類に対するイミダク

ロプリド・スピノサド水和剤Fの効果

○ブロッコリーのコナガに対するイミダクロプリド・スピノサド水和剤Fの効果

○ブロッコリーのコナガに対するスピネトラム水和剤Fの効果

○ブロッコリーのヨトウガに対するメタフルミゾン水和剤Fの効果

○アスパラガスのツマグロアオカスミカメに対す

るペルメトリン乳剤（未登録）の効果

○スターチス・シヌアータの茎葉黄化対策技術の実証

(4) 研究参考事項

○地中熱交換システムを活用した省エネルギー施設園芸技術の評価

Ⅶ その他

1. 職員の研修

(1) 職場外研修（階層別、能力開発）

受講者	研修項目	実施機関	場所	期間
田中 静 幸	知的財産管理実務研修	道総研	札幌市	25. 5. 29
大宮 知	新任主査級	道総研本部	札幌市	25. 7. 29 ～ 25. 7. 30
西脇 由 恵	新任主査級	道総研本部	札幌市	25. 7. 29 ～ 25. 7. 30
野田 智 昭	新任主査級	道総研本部	札幌市	25. 7. 29 ～ 25. 7. 30
黒島 学	きく類の生産・流通	花き研究所	つくば市	25. 9. 12 ～ 25. 9. 13
橋本 裕二	法令遵守	道総研本部	札幌市	25. 10. 22
長尾明宣・田中静幸	植物遺伝導入(専門)	道総研本部	札幌市	25. 12. 20
大久保 進 一	園芸学会春季大会	園芸学会	つくば市	26. 3. 28 ～ 26. 3. 30

(2) 職場研修（集合・伝達研修）

研修内容	実施月日	時間	講師	参加人数
職場研修（学位論文発表会）	25. 9. 3	1:30	上川農試（研究部地域技術G）地子研究主任	46
職場研修（健康づくりセミナー）	25. 11. 7	2:00	道総研本部非常勤職員・保健師	31
伝達研修（法令遵守等）	26. 10. 29・11. 12	1:00	総務部 橋本部長	48
伝達研修（植物遺伝資源導入）	26. 1. 17	1:00	研究部（研究部花き野菜G）田中研究主幹	26
職場研修（交通安全講習会）	26. 3. 7	1:10	滝川市くらし支援課交通安全推進員	25

2. 見学・参観

月 日	団 体 名 (人数)	月 日	団 体 名 (人数)
4月11日	和田農園 [糸川] (2)	7月4日	JA南るもい野菜部会 [小平町] (20)
6月11日	砂川市立砂川小学校 (50)	7月5日	JAこしみずGアスパラ部会 (6)
6月11日	兵庫県八鹿高等学校 [数市] (5)	7月10日	JAいわみざわスイートコーン部会 (25)
6月13日	富良野緑峰高等学校 (農業特別専攻科) (23)	7月10日	JA東旭川青年部 (15)
6月17日	田中 匠 (新規就農予定者) [長沼町] (1)	7月16日	JA北ひびき剣淵町アスパラ部会 (30)
6月18日	剣淵町南桜町自治会西地区 (20)	7月17日	ニセコ町農民同盟 (10)
6月21日	長沼町園芸組合連合会アスパラ部会 [JANAがぬま] (20)	7月17日	JAオロロン女性部会 [羽根町] (29)
6月25日	JA斜里町青年部園芸部会 (7)	7月18日	北空知広域農協連 [深川市] (19)
6月28日	訓子府町議会 (12)	7月18日	北広島家庭菜園研究会 (25)
7月1日	喜茂別町蔬菜組合トマト部会 [JAよついで] (18)	7月19日	鶴川花き生産組合スターチス・リシアンサス部会 [わかや町] (15)
7月2日	JICAモザンビーク国別研修 (10)	7月22日	北海道立農業大学校 [本町] (2)
7月3日	JAいわみざわJAだより通信員連絡協議会 (5)	7月24日	トモエときわ研修会 [東京都] (24)
		7月26日	北海道消費生活コンサルタントクラブ [札幌市] (30)
		8月9日	菊田 直哉 (次年度総合研修希望者) [札幌市] (1)
		8月19日	佐呂間町農業委員会 (15)

- 月 日 団 体 名 (人数)
- 8月19日 和歌山県農業大学校 [かつらぎ町] (16)
- 8月20日 北空知広域農協連多度志・音江合同研修会 [淵市] (20)
- 8月21日 北海道鉢花生産組合 (18)
- 8月21日 北空知広域連ソアーク部会 [淵市] (15)
- 8月23日 ながぬま農協営農集団協議会 (18)
- 8月26日 北海道銀行 [札幌] (2)
- 8月29日 佐賀県議会議員 (11)
- 8月30日 滝川農業塾 (7)
- 9月2日 JICAベトナム国別研修 (10)
- 9月13日 拓殖大学北海道短期大学 [淵市] (49)
- 9月19日 北海道種苗協同組合夏季研修会 [札幌] (30)
- 9月26日 学校法人 八紘学園 [札幌] (7)
- 10月3日 韓国 江原道農業技術院 (3)
- 10月9日 北海道立農業大学校 [札幌] (4)
- 10月28日 オリエンタルランド社 [札幌]、道経済部 産業振興課 (4)
- 11月7日 落部花卉生産組合 [JA新はこだて八雲支所] (8)
- 11月27日 JAふらの南富良野支所南富良野町野菜生産組合 (10)
- 11月28日 道央農協青年部 千歳ブロック (20)
- 3月19日 旭川農業高等学校 [生活科学科] (7)

月	団体数	人数
4月	1	2
5月	0	0
6月	8	138
7月	16	283
8月	10	123
9月	4	96
10月	3	11
11月	3	38
12月	0	0
1月	0	0
2月	0	0
3月	1	7

合計	46団体	698人

3. 研修生の受入れ (研修事業以外)

(1) 普及指導員研修

1) 新任者集合研修 7/2～7/10

研修項目	対象者	担当
道内主要野菜・花栽培に関する基礎的技術の習得	空知(本所)三宅 平 空知(北空知)林 和希 渡島(本所)萩原淳史 渡島(本所)元島美彩 上川(本所)有田匡志 上川(富良野)火ノ川祐貴 宗谷(本所)後藤賢治 網走(美幌)今野弘規 十勝(本所)石川弘大 十勝(東部)佐々木えり子 十勝(北部)坂井由香里 釧路(本所)中川奈穂子 釧路(東部)酒井麻子	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

2) 専門技術研修 (野菜) 6/26～6/29

研修項目	対象者	担当
野菜の花芽検鏡・接ぎ木技術・品質分析技術技術の習得	渡島(南部)山口泰輔 石狩(北部)五十嵐美由紀 渡島(本所)深尾伸一 上川(士別)加賀屋綾子 檜山(本所)小澤 徹	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

3) 高度専門技術研修 (野菜)

6/4～6/8, 7/30～8/3, 9/3～9/7

研修項目	対象者	担当
トマト・メロン・いちご・かぼちゃ・葉菜類栽培技術の習得	空知(南東部)八重樫有紀 空知(中空知)下田祐規子 日高(西部)福原比奈子	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

4) 専門技術研修 (花き) 6/26～6/29

研修項目	対象者	担当
主要花きの品種特性、新技術、挿し木等の繁殖技術の習得	空知(北空知)小林佐代 石狩(北部)浦上 涉	技術普及課、 技術普及室、 技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G

5) 高度専門技術研修 (花き)

6/18～6/22, 7/30～8/3, 9/3～9/7

研修項目	対象者	担当
花き開花調節技術、	後志(本所)寺西範晃 胆振(東胆振)千石由利子	技術普及課、 技術普及室、

品質保持 技術等の 習得	技術研修G、 花き野菜G、 生産環境G
--------------------	---------------------------

4. 委員会活動

(1)各専門委員会の名簿

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

ア. 業務委員会

川岸康司(委員長)、岩橋広樹(総務課)、木村文彦(花き野菜G)、田丸浩幸、西脇由恵(生産環境G)、小田義信、及川 忠、南 貴夫、(技術研修G)

イ. 環境整備委員会

田中静幸(委員長)、岩橋広樹(総務課)、白井佳代(生産環境G)、鈴木亮子、玉川 忠(技術研修G)

ウ. 情報・図書委員会

角野晶大(委員長)、白木和美、土田操(総務課)、大宮 知(花き野菜G)、野田智昭(生産環境G)、得能 徹(技術研修G)、橋本直樹(場内システム委員)

エ. 研修事業委員会

V 研修事業の概要参照

(2) 各専門委員会の活動

1)業務委員会

ア. 業務委員会の開催

- (ア) 通常：4月4日～11月28日、毎週1回
- (イ) 冬期：12月26日～3月27日、毎月1回
- (ウ) 拡大：4月11日

イ. 主な検討事項

- (ア) 週間・月間作業計画
- (イ) ほ場、ハウス、温室等施設の利用計画
- (ウ) ほ場の整備工事(排水路、暗渠)
- (エ) ハウスの張り替え計画
- (オ) その他

ウ. 主催行事

- (ア) 植栽&ご苦労さん会 6月20日
- (イ) 収穫祭 10月25日

2)環境整備委員会

(ア) 展望台：ラベンダー、グラウンドカバープランツ、小果樹園の管理

(イ) 庁舎前花壇：マリーゴールド他(6/20)、チューリップ(10/23)の定植

(ウ) 旧十勝道路沿い：清掃、ハマナス、アジサイ等の除草、冬囲い

(エ) その他敷地内：防風林剪定、枯木の除去

3)情報・図書委員会

ア 情報図書委員会の開催

- ・第1回(4月17日)：活動・予算計画
- ・第2回(3月17日)：活動の総括、次年度への懸案事項、年報原稿依頼、見学案内原稿依頼

イ 見学案内に関する事

- ・見学案内資料の作成
- ・見学案内リハーサル開催(5月22日)
- ・総合研修生の参加呼びかけ

ウ 場の広報に関する事

- ・平成24年度年報の作成とHP掲載
- ・ロビー設置ポスターおよびちらしの展示・更新(技術研修Gに実施いただいた)
- ・過去の年報のHPへの掲載

エ 法人情報システム(含むホームページ)の管理・運営に関する事

- ・HP統一画面への変更
- ・HPの更新(センターナウ10回、営農技術対策7回、研修情報他広報関連10回、事務関連4回の合計31回更新)
- ・園芸談話会HPの削除
- ・場代表アドレスの管理(研究部長対応)

オ 図書の整備(購入)および管理に関する事。

- ・図書資料の受け入れと購入
- ・成績書および定刊等の製本
- ・雑誌類や成績書の簡易製本の実施

5. 公開デー 2013 の実施

8月7日(火)に実施。

(来場者数：227名)

(ア) 屋内会場の催し物

- フラワーデザインセミナー(技術研修G)
- 切り花染色実験(花き野菜G)
- 病害虫診断コーナー(生産環境G)
- 土壌診断コーナー(生産環境G)
- 園芸相談コーナー(技術研修G)

- パネル展示コーナー
- 塗り絵コーナー
- マチろー体験会
- 展示温室：ダリア・かぼちゃ・とうがらし・花壇用草花・綿花等

(イ) 屋外会場の催し物

- メロン品種の試食(花き野菜G)
- さわって当てようクイズ(花き野菜G)
- 農業機械展示(技術研修G)
- 飲食および農産加工品直売コーナー

滝川食と農を考える女性の会
り・ふありーぬ

農山漁村文化協会

(ウ) ほ場での催し物

- ハウス圃場案内
- 研修圃場の紹介
- 研修生による生産物の試食、販売

6. 講師等の派遣

- 福川英司. ねぎ品種圃場検討会ほか. 北海道種苗協同組合平成25年度夏季研修会(2013.9.19)
- 福川英司. 地中熱交換システムを活用した省エネルギー施設園芸技術の評価. 北海道種苗協同組合平成25年度冬季研修会(2014.2.20)
- 木村文彦. 花・野菜技術センターにおける春どりいちご品種の育種状況について. 日胆いちご栽培情報交換会(2013.11.13)
- 黒島学. 輪ぎく‘精の一世’の秋季出荷安定栽培法. 北海道種苗協同組合平成25年度冬季研修会(2014.2.20)
- 大久保進一. 秋季安定生産に向けたトマト3段どり栽培技術と経済性. 北海道種苗協同組合平成25年度冬季研修会(2014.2.20)
- 福川英司. 平成25年度の発生に鑑み注意すべき病害虫. 北海道種苗協同組合平成25年度冬季研修会(2014.2.20)
- 福川英司. 農試よりの新技術ほか. 北海道種苗協同組合平成25年度冬季研修会(2014.2.20)
- 大宮知. 北空知広域連花木類部会 ビバーナム・スノーボール現地講習会(2013.4.30)
- 大宮知. ユリ‘ピカリ’のりん片繁殖子球による切り花栽培における定植時期が切り花品質に及ぼす影響. 平成25年度北海道花き懇話会シンポジウム(2013.12.3)
- 大宮知・湯本弘子・市村一雄・黒島学・田中静幸. 高温条件における後処理がカーネーション切り花の品質保持に及ぼす影響. 平成25年度北海道花き懇話会シンポジウム(2013.12.3)
- 鈴木亮子. スターチス・シヌアータの茎葉黄化対策技術の実証. 北海道種苗協同組合平成25年度冬季研修会(2014.2.20)
- 田中静幸. 雑草概論と防除および植物の生育調節. 北海道除草剤・生育調節剤懇話会(2013.10.20)
- 田中静幸. 農薬指導士認定研修(2014.2.7)
- 田中静幸. 花・野菜技術センターの役割、試験・研究内容等について. 農薬技術研修会(2014.2.20)
- 田中静幸. 雑草防除について. 農薬技術研修会(2014.2.20)
- 八木亮治. I 赤肉メロン品種‘北かれん’の果実品温と果皮黄化の関係、II メロン果実内腐敗病について. 第42回キングメルター会総会(2013.12.3)
- 八木亮治. 第21回北海道メロンサミット会(2013.12.11)
- 八木亮治. 鮮度保持フィルムを使用した鮮度保持特性の評価(メロン). 平成25年度北海道野菜産地強化協議会(2014.3.25)
- 林 哲央. 野菜づくりに適する土壌の見方と改良ポイント. 旭川青果物生産出荷協議会旭正支部後継者・新規就農者研修会(2013.8.27-28)
- 林 哲央. 畑作物と野菜のリン酸節約. 北海道農協土づくり運動本部現地研修会(2013.8.1)
- 林 哲央. 土壌肥料の基礎. 第3回上川農業改良普及センター農業講座(2013.10.24)
- 野田智昭. 農産物の鮮度保持. 農業大学校畑作園芸機械施設演習.(2013.10.11-12)
- 白井佳代. パレイシヨ疫病の発生生態と防除対策について. 社団法人北海道馬鈴しょ生産安定基金協会第21回馬鈴しょ栽培講習会(2014.2.6-7)
- 鈴木亮子. スターチス・シヌアータの黄化対策試験報告. 北空知広域連部会合同反省会(2013.11.19)
- 鈴木亮子. トルコギキョウ高品質安定生産のた

めに、JA南るもい花き生産組合反省会(2013.12.18)

○鈴木亮子、スターチス・シヌアータの黄化対策試験報告、多度志支所FlowerCollege講習会(2014.2.26)

○鈴木亮子、スターチス・シヌアータの黄化クレームをなくすには?、北海道種苗協同組合平成25年度冬季研修会(2014.2.20)

○鈴木亮子、スターチス・シヌアータの黄化対策試験報告、北育ち元気村花き生産組合スターチス部会講習会(2014.3.6)

7. 各種委員

○藤田寿雄・生方雅男・大宮知、第33回北海道花き品評会切花の部審査員、札幌市、(2013.7.18)

○藤田寿雄・生方雅男・黒島学、北海道鉢花品評会審査員、札幌市、(2013.11.28)

○黒島学、JA三石切り花審査会審査委員、新ひだか町、(2013.7.4)

○長尾明宣、北海道園芸研究談話会幹事長(2011.12.1~2013.11.30)

○大宮知、鉢花品評会2013鉢花・蘭の部審査員、

愛知県豊明市、(2013.11.20)

○田中静幸、北海道園芸研究談話会幹事(2011.12.1~2013.11.30)

○生方雅男、植物工場事業性検討会議アドバイザー、北海道食産業総合振興機構

○生方雅男、北海道切花品評会審査員、札幌市、(2013.7.18)

○生方雅男、北海道鉢花品評会審査員、札幌市、(2013.11.28)

○生方雅男、北海道養液栽培(植物工場)研究会運営委員

○生方雅男、ICT活用人材育成サポート事業 管理技術マニュアルWG委員、北海道食産業総合振興機構

○生方雅男、平成25年度農業電化コンクール表彰候補選考委員会委員

○田中静幸、ニューカントリー2013年秋季臨時増刊号北海道の野菜づくり第2部監修(2013)

○鈴木亮子、北海道野菜地図編集委員

○鈴木亮子、北海道花き懇話会監事

○川岸康司、北海道フードマイスター検定運営委員、現行小委員

Ⅷ 自己点検への対応

平成25年度 点検表

事 項	点数	備 考
重点研究課題	1	いちごの自立型採種育苗
経常研究課題数	15	輪ぎく、いちごの新品種育成、さつまいも等
公募型研究への応募課題数	4	花持ち保証、カボチャ端境期出荷、地中熱の利用等
一般共同研究課題数	1	赤肉メロン育種
民間受託研究課題数等	11	民間受託(5)、道受託(3)、奨励研究(1)、国独法受託等(2)
研究成果発表会の開催件数	1	新技術セミナー(126名)
発表会・展示会等への出展件数	2	サイエンスパーク、花野新技術発表会
普及組織と連携した普及状況	11	空知地域農業技術支援会議、滝上町シバヅクラ対策等
学会誌、雑誌などへの投稿	8	「第6回食用ネギ類国際シンポジウムの概況について」等
学会・研究会・新技術発表会等への発表	21	「トマト1段密植栽培における葉数の違いが収量に及ぼす影響」等
技術相談の実施状況	229	
雑誌、書籍、新聞等における研究成果	52	雑誌(14)、書籍(33)、新聞(5)
技術指導の実施状況	161	花き類現地講習会、北海道農協土づくり運動本部研修会等
技術審査件の実施状況	1	花き品種審査会
研修会・講習会等の開催状況	9	いちごセミナー、トマトセミナー等(総計628名)
研修者の延べ受入人数	14	専門技術研修、総合技術研修、インターン、フォローアップセミナー、基礎技術研修等(総計89名)
視察者・見学者の受入件数	46	総計691名
道民向けセミナーの開催件数	2	市民園芸セミナー(22名)、フラワーデザイン(30名)
公開デー等の延べ参加者数	227	8月6日開催
学会等役員・委員等件数	16	北海道野菜地図編集委員、植物工場事業検討委員、北海道フードマイスター運営委員等
国際協力事業等への協力件数	4	モンゴル、モザンビーク、ベトナム等(総計70名)
道関係部との連絡会議等の開催件数	8	北海道野菜ブランド品種認定委員会、野菜産地強化協議会等
市町村との意見交換等の開催件数	1	北空知農業振興談話会拡大幹事会
国内研修Ⅱ(学会等)の派遣件数	7	日本植物病理学会北海道部会、園芸学会春季大会等
企業等への訪問件数	7	
関係団体等との意見交換等の開催件数	22	北海道有機玉ねぎ育苗培土を考える会、国産花きイノベーション推進事業、野菜低コスト生産実証試験会議等
職場研修	6	植物防疫法及び植物遺伝資源の導入に係る手続、交通事故の発生要因・自動車運転の注意と意識する事項等(総計177名)
ホームページ更新件数	31	
グリーン購入の金額	1,773千円	トナーカートリッジ、アルカリ乾電池等

ISSN 1346-7506

平成25年度 (2013)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
花・野菜技術センター年報

平成26年11月 発行

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
農業研究本部 花・野菜技術センター

〒 073-0026 北海道滝川市東滝川735番地

Tel. 0125-28-2800

Fax. 0125-28-2165 (総務課)

Fax. 0125-28-2299 (研究部、技術普及室)
